

奈良県感染症発生動向調査事業報告

令和3年 内科・小児科感染症の概要

1. 令和3年の流行状況(定点当たり)

令和3年(1月～12月の合計)の定点当たり報告数は、多い順から(定点当たり報告数)[報告実数]、①感染性胃腸炎(174.74)[5,941人]、②RSウイルス感染症(89.41)[3,040人]、③手足口病(30.85)[1,049人]、④突発性発しん(19.09)[649人]、⑤咽頭結膜熱(14.79)[503人]、⑥A群溶連菌咽頭炎(14.50)[493人]、⑦ヘルパンギーナ(7.12)[242人]、⑧水痘(3.71)[126人]、⑨流行性耳下腺炎(1.38)[47人]、⑩伝染性紅斑(0.53)[18人]、⑪インフルエンザ(0.04)[2人]であった。

2. 地区別(保健所別)の報告数(定点当たり)の状況(県平均との比較)

地区別(保健所別)で県平均以上の報告数があった疾病は、奈良市保健所(4疾患)はインフルエンザ、水痘、伝染性紅斑、突発性発しん、郡山保健所(2疾患)は伝染性紅斑、ヘルパンギーナ、中和保健所は(東)と(西)で共通のRSウイルス感染症、咽頭結膜熱、A群溶連菌咽頭炎、感染性胃腸炎、水痘、突発性発しんに、(東)は流行性耳下腺炎が加わり7疾患、(西)は手足口病、伝染性紅斑、ヘルパンギーナが加わり9疾患、内吉野保健所(2疾患)はインフルエンザ、A群溶連菌咽頭炎、吉野保健所(3疾患)は咽頭結膜熱、水痘、流行性耳下腺炎であった。

3. 月別の発生状況(定点当たり)

各疾病の月別流行状況を見てみると、1月、2月が最多であった疾患は0疾患であった。3月(1疾患)が最多であった疾患はインフルエンザ0.02(1人)(=12月と同数)で、以降、4月(2疾患)はA群溶連菌咽頭炎2.32(79人)、突発性発しん2.03(69人)、5月(1疾患)はRSウイルス感染症25.88(880人)、6月(1疾患)は咽頭結膜熱2.71(92人)、7月(1疾患)は流行性耳下腺炎0.32(11人)、8月(0疾患)、9月(0疾患)、10月(2疾患)は伝染性紅斑0.18(6人)、ヘルパンギーナ1.91(65人)、11月(2疾患)は水痘0.76(26人)、手足口病12.35(420人)、12月(2疾患)はインフルエンザ0.02(1人)、感染性胃腸炎45.53(1,548人)であった。

4. 世代別(1歳平均)での報告数の状況

インフルエンザは3歳(1人)と[80歳～](0.1人)で、他の年齢はすべて0人であった。RSウイルス感染症の上位2年齢区分は幼児期[1～5歳]509.2人、乳児期[0歳]453.0人、咽頭結膜熱は幼児期86.6人、乳児期38.0人、A群溶連菌咽頭炎は幼児期61.6人、学童期[6～14歳]16.7人、感染性胃腸炎は幼児期750.4人、乳児期343.0人、水痘は幼児期10.6人、乳児期9.0人、手足口病は幼児期186.2人、乳児期93.0人、伝染性紅斑は幼児期3.0人、乳児期1.0人、突発性発しんは乳児期214.0人、幼児期86.2人、ヘルパンギーナは幼児期43.8人、乳児期12.0人、流行性耳下腺炎は幼児期5.4人、学童期2.0人であった。

インフルエンザ定点分
(小児科定点・内科定点)

1.インフルエンザ

図 1-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

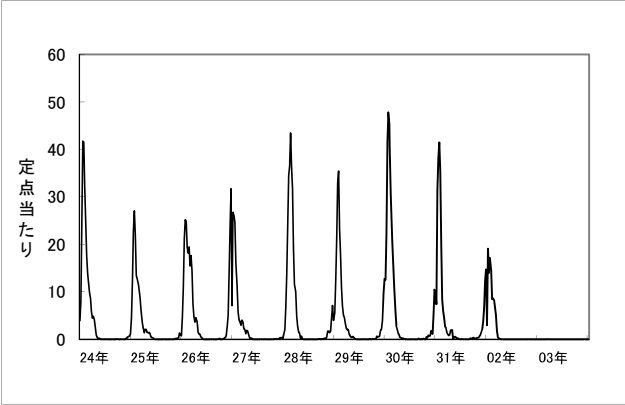


図 1-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

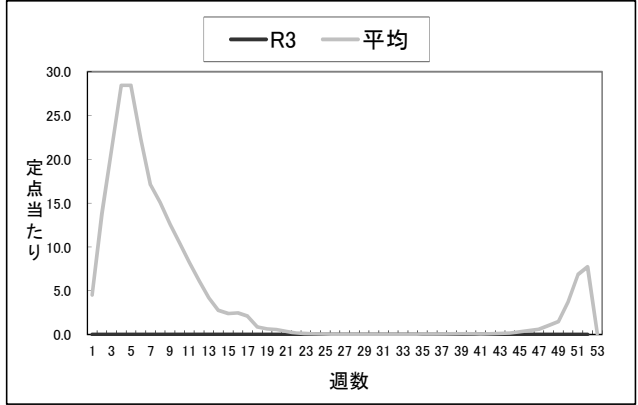


図 1-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

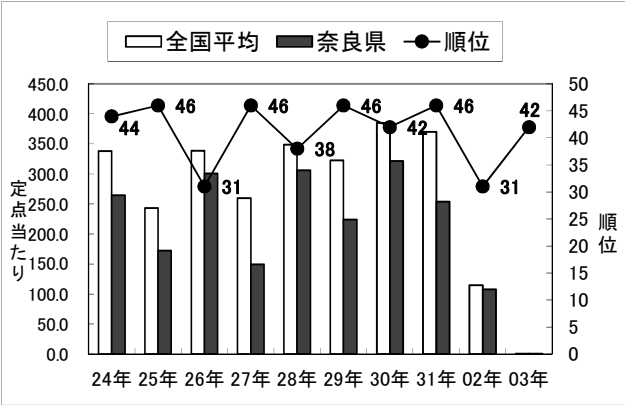


図 1-6 年齢別報告数(実数)

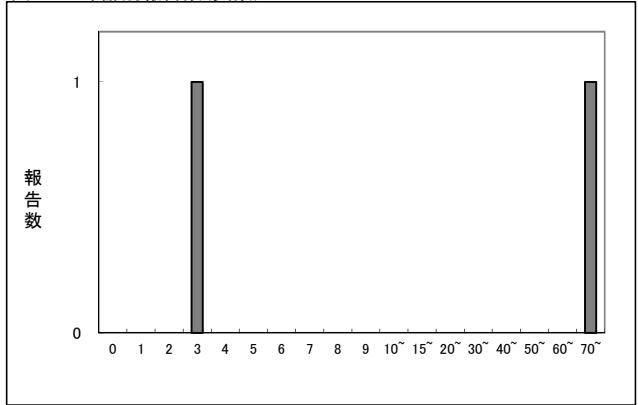
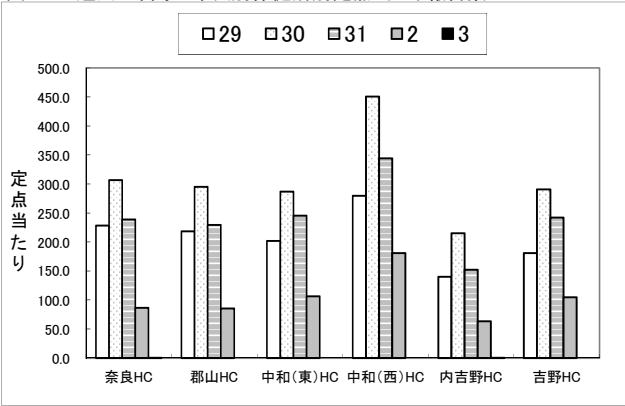


図 1-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

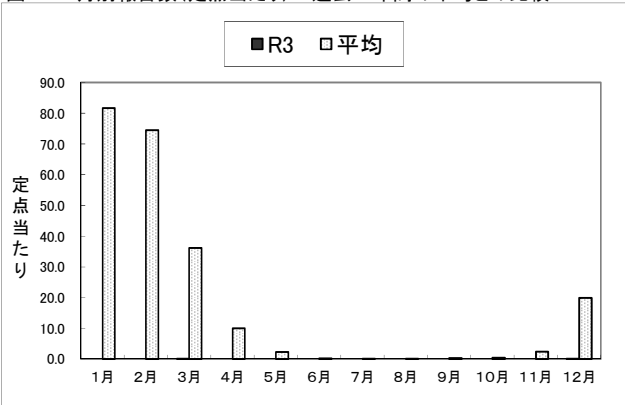


コメント

令和3年は奈良市の3歳児が1名、内吉野の80歳代が1名罹患したのみであった。
時期は3月と12月であった

(榑原 葉月 記)

図 1-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



小兒科定点分

2.RSウイルス感染症

図 2-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

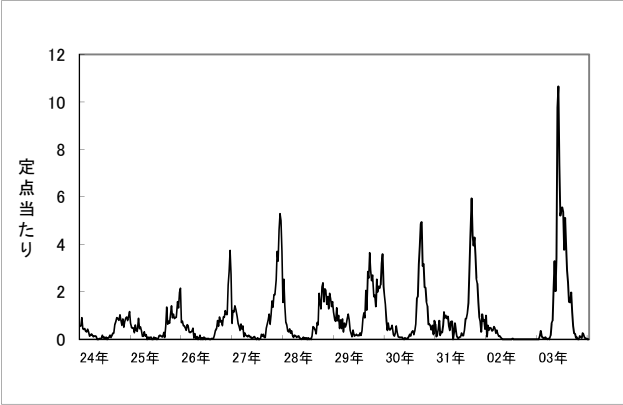


図 2-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

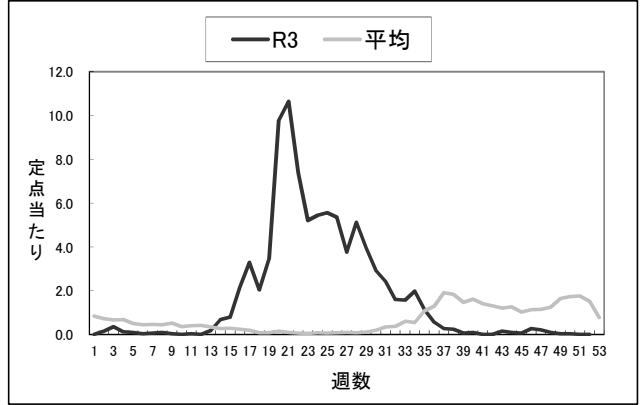


図 2-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

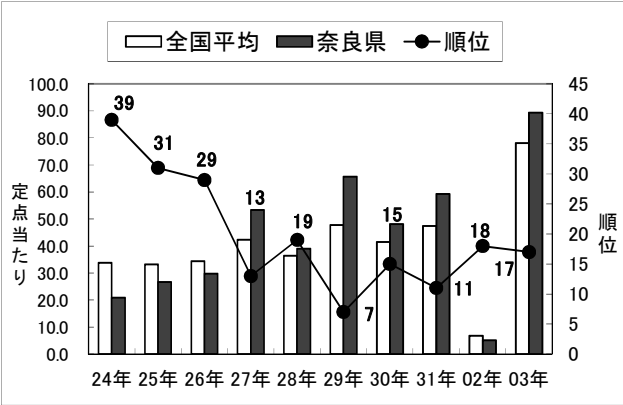


図 2-6 年齢別報告数(実数)

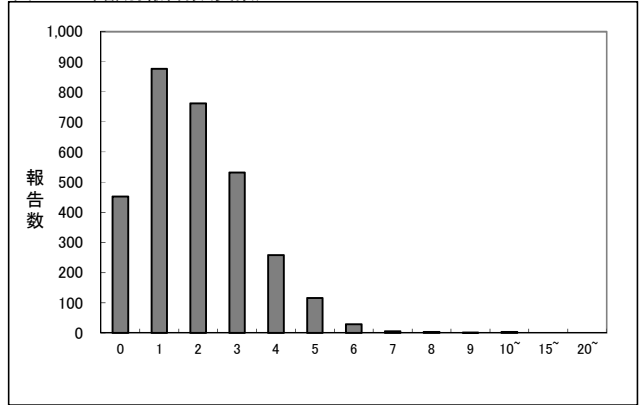


図 2-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

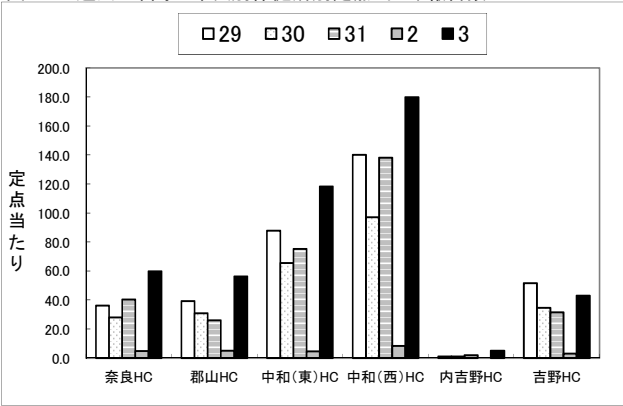
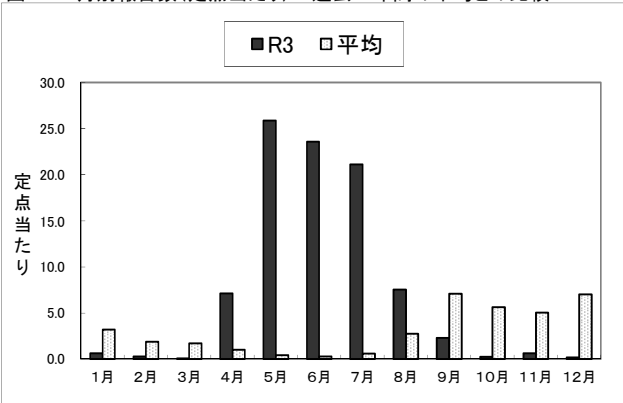


図 2-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

令和3年は奈良県全体で3040例の報告があり、令和2年の約20倍の患者数であった。
 年齢別では1歳児が最多で、0歳児の約2倍であり、年齢が高くなるごとに患者は減っている。
 例年は9月～3月に罹患することが多いが、令和3年は4月から急激に患者数が増加し、5月にピークを迎え、9月に収束するというパターンであった。

(榑原 葉月 記)

3.咽頭結膜熱

図 3-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

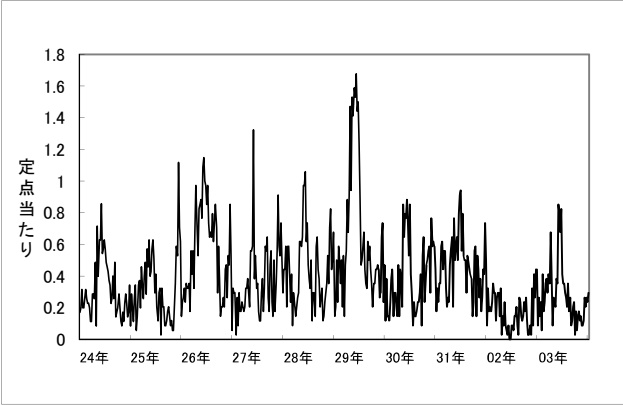


図 3-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

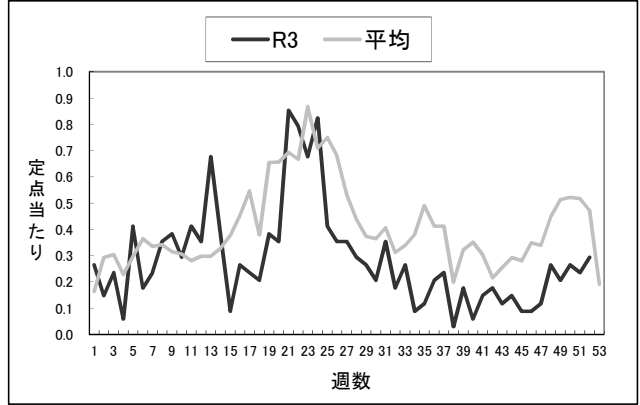


図 3-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

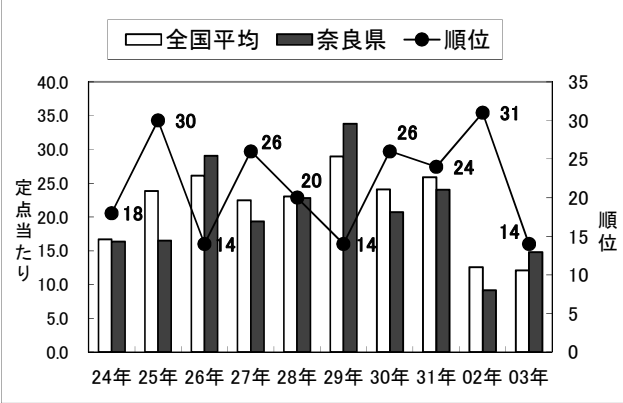


図 3-6 年齢別報告数(実数)

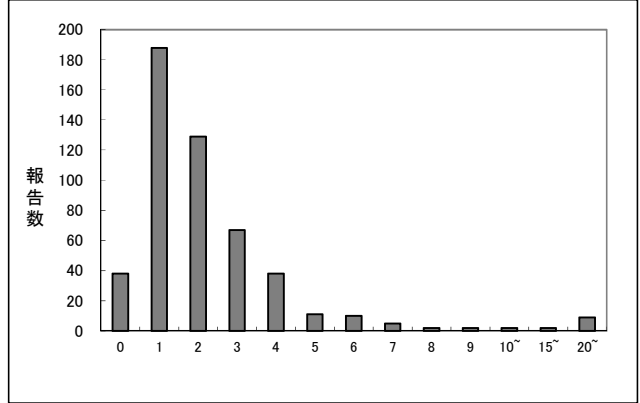
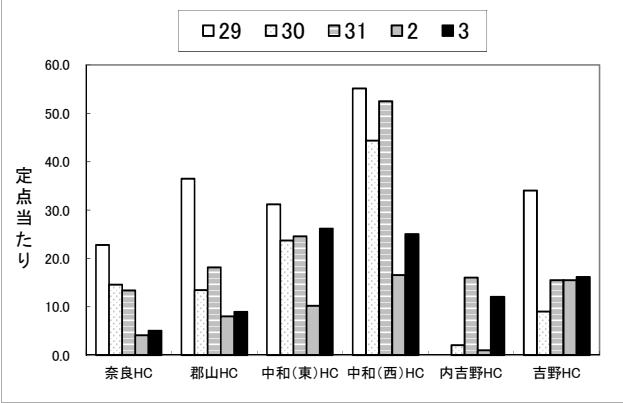


図 3-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

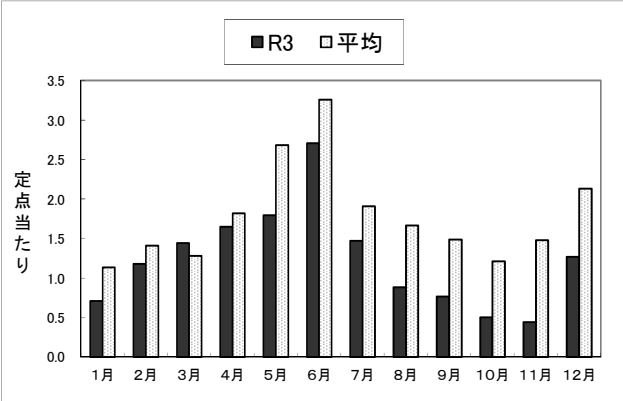


コメント

令和3年は奈良県全体で503例の報告があり、昨年に比べ、増加傾向であった。
流行時期は6月がピークで、例年とくらべて8月から12月は罹患者が少なかった。
年齢別では1歳児と2歳児が多く、年齢が高くなるにつれ、患者数は漸減している。

(榊原 葉月 記)

図 3-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



4.A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

図 4-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

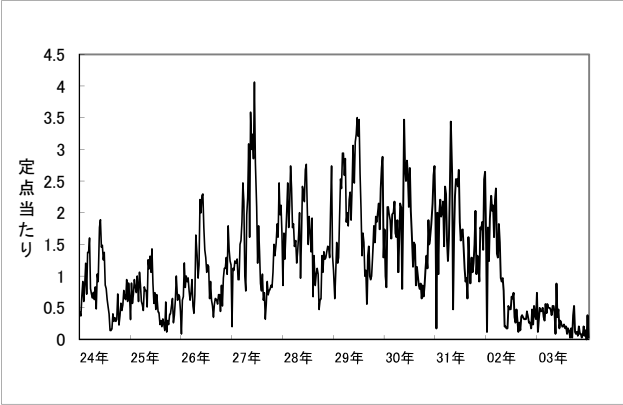


図 4-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

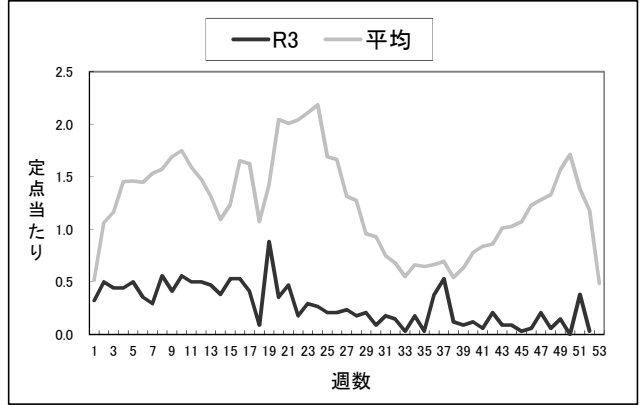


図 4-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

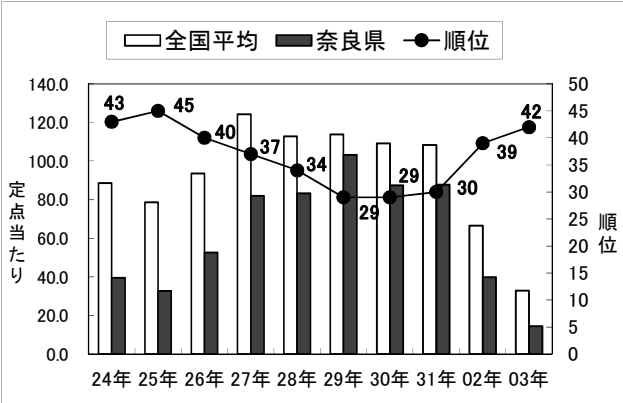


図 4-6 年齢別報告数(実数)

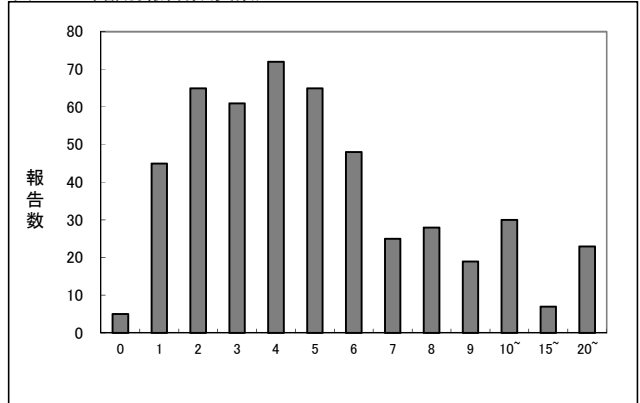


図 4-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

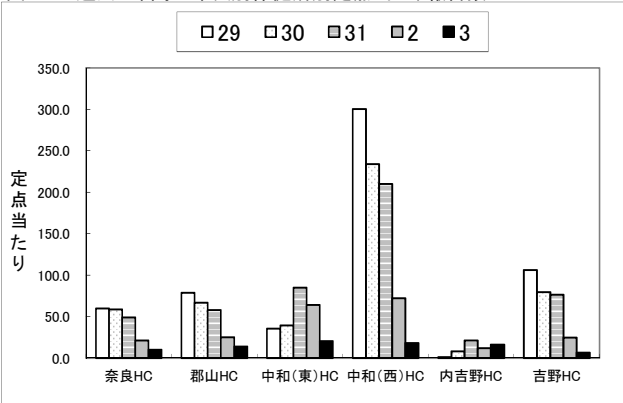
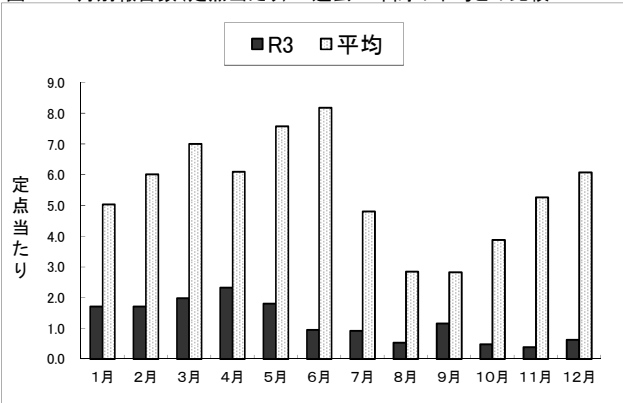


図 4-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

令和3年における全報告数は、493例、定点あたり14.5で、前年の約3分の1であり、全国平均の2分の1である。過去10年間で最も少ない。全国でも定点あたり報告数(32.89)は前年(66.5)の約半分となっている。COVID-19感染拡大防止のため、令和2年に実施された全国一斉の臨時休校で発生数が激減したが、その後も学校・園での感染予防策の徹底や活動自粛による感染機会の減少で発生数が低下したと考えられる。

保健所別定点あたりの報告数は、全報告数が少ないため差が見えにくくなっている。

月別定点あたり報告数、週別定点あたり報告数は例年を大幅に下回り、従来の春先から夏にかけてと冬季の2つピークが不明瞭で、冬季にやや多く4月に小ピークを示した。

年齢別の実報告数では4歳をピークに(72例)に分布、例年通り0~9歳までで全体の88%を占めていた。

小児科定点の疾患別にみると学童期では感染性胃腸炎に次いで報告数が多いが、幼児では感染性胃腸炎についてRS感染症、手足口病、咽頭結膜熱、突発性発疹に次ぐ報告数であった。

COVID-19に対する感染防止対策が、同じように飛沫感染で感染拡大するA群溶血性レンサ球菌咽頭炎感染予防にも功を奏したと思われる。

(水野 文子 記)

5. 感染性胃腸炎

図 5-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

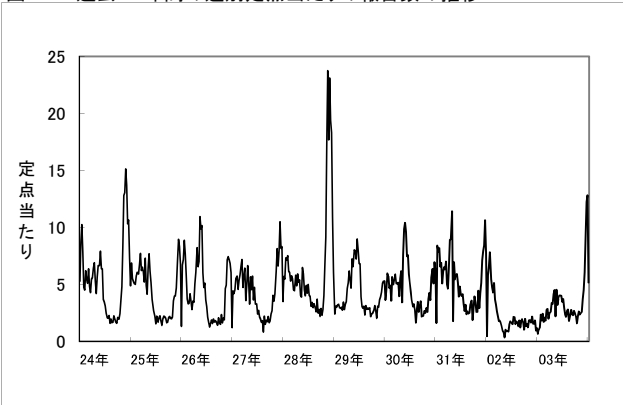


図 5-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

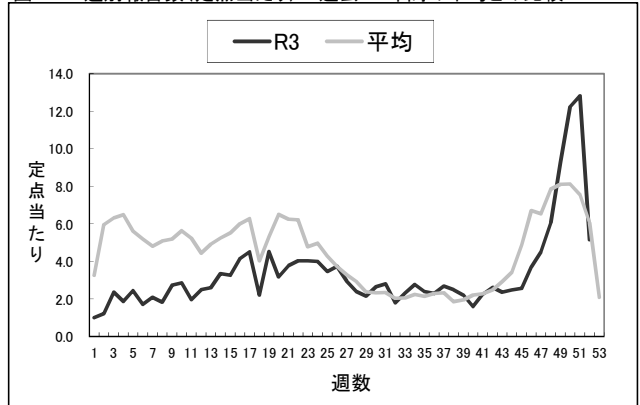


図 5-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

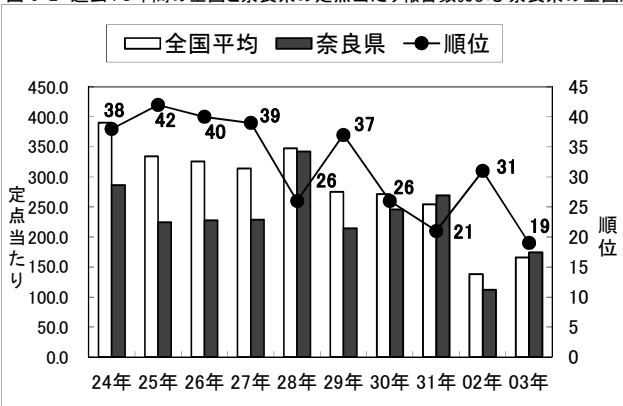


図 5-6 年齢別報告数(実数)

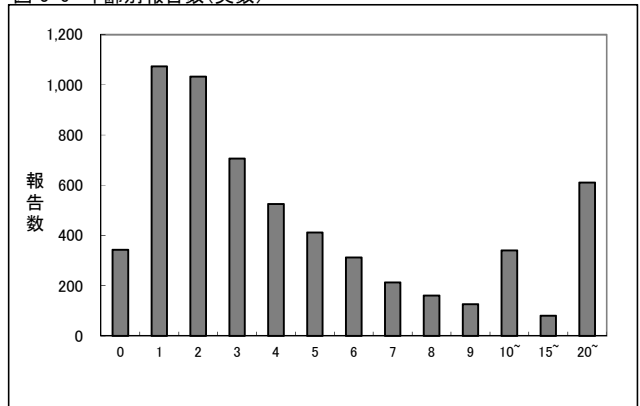


図 5-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

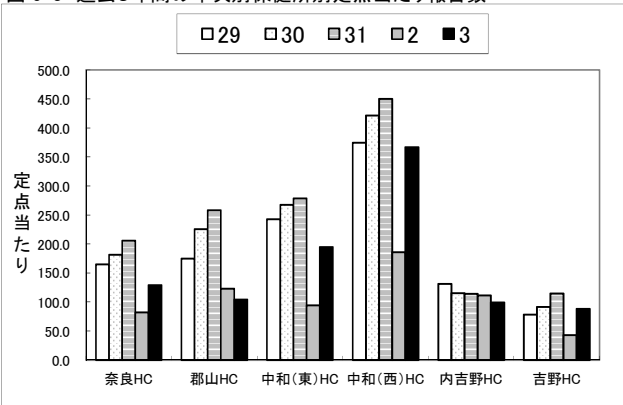
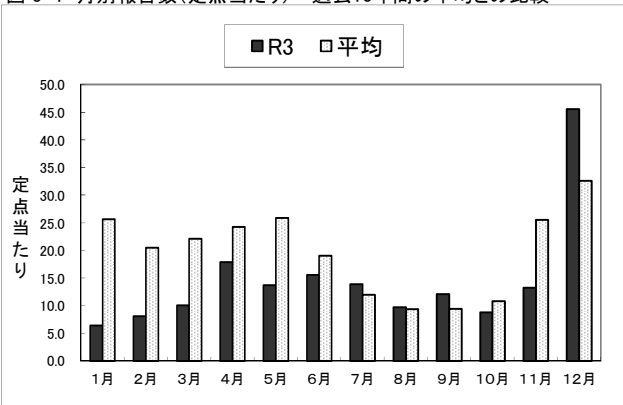


図 5-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

令和3年における全報告数は、5941例、定点あたり報告数は174.74で、令和2年より漸増した。過去10年間の報告数の推移では、令和元年までの報告数よりは少ないが、令和元年と同様全国平均(165.77)を上回り、順位は過去最高の19位となった。

保健所別定点あたりの報告数は、中和(西)、中和(東)が多い傾向は変わらないが、報告数減少で、他の保健所間の差は少なくなっている。

月別定点当たり報告数は、1～3月の報告数は過去10年の平均報告数より大きく下回り、12月の報告数はそれを大きく超えている。週別定点当たり報告数でみると、年初は例年よりかなり少なく徐々に増加、夏場以降は例年と同数報告され、49～51週のピーク(9.26～12.82)は過去10年間の平均のピーク時の報告数8.12を大きく上回った。年初の報告数低値は令和2年3月から続いており、COVID-19感染防止のための外出自粛の影響かもしれない。

年齢別の実報告数では例年と同様、1歳(1,074例)が最多で、0歳(343)、2歳(1,033)、3歳(707)、4歳(526)、5歳(412)の乳幼児期で全体の68.9%を占めている。小児科定点の疾患別割合では、乳児期を除き、幼児期・学童期・思春期において報告数が最も多くなっている。

新型コロナウイルス感染防止対策としての手洗い、マスク着用、学校・園の休校休園、外出自粛で令和2年から発生が抑えられてきた感染性胃腸炎だが、社会経済活動の再開などもあり、感染予防対策を十分に取れない乳幼児を中心として漸増に繋がっている可能性がある。令和2年10月からのロタウイルスワクチンの定期接種の効果についてはまだ十分に評価する段階にはないと考えられる。

(水野 文子 記)

6.水痘

図 6-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

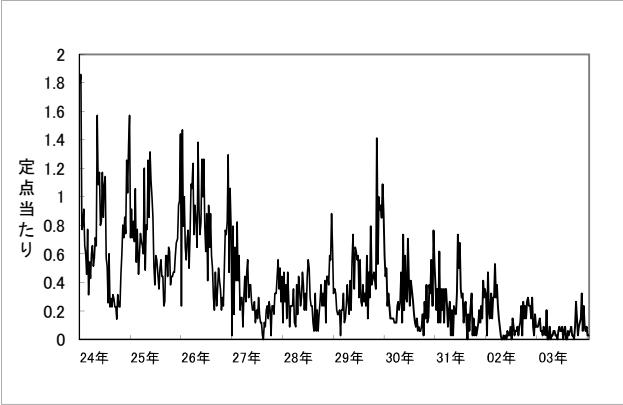


図 6-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

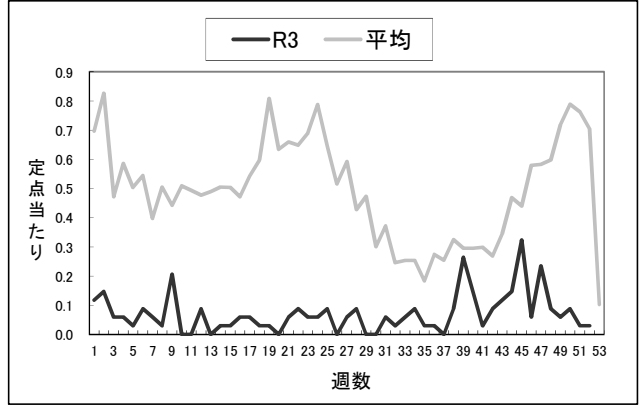


図 6-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

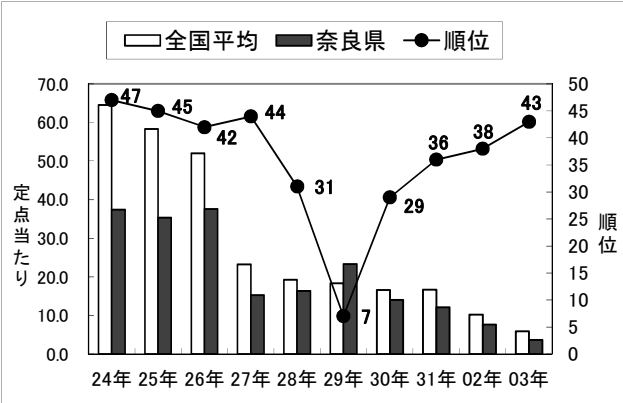


図 6-6 年齢別報告数(実数)

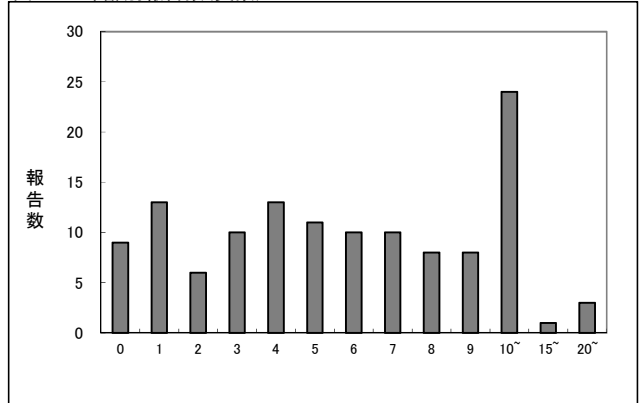


図 6-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

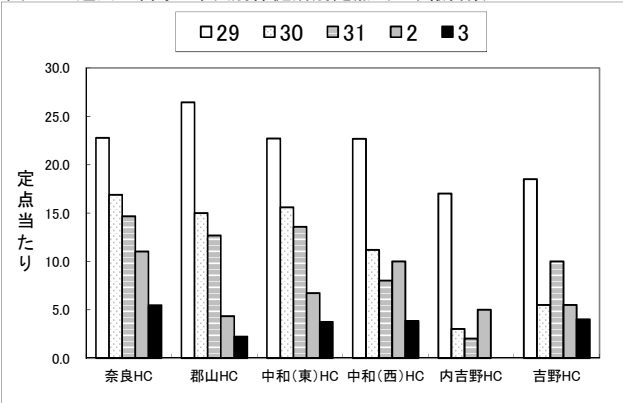
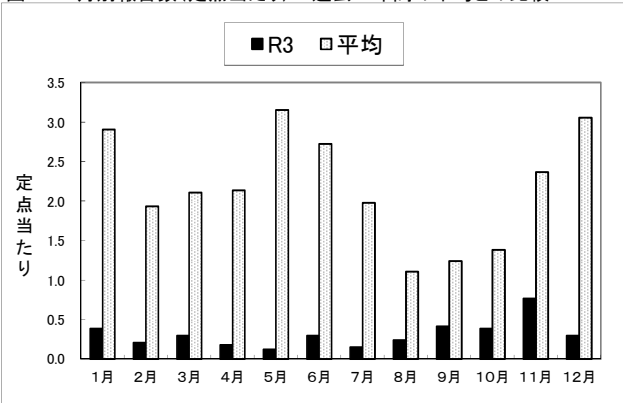


図 6-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

令和3年における全報告数は、126例、定点当たり報告数は3.71(全国平均5.91)で前年より半減、過去10年間の定点当たり報告数も最も少なくなった。

保健所別定点あたりの報告数は、吉野以外は前年の半数かそれ以下となり、保健所間の差は少なくなっている。

月別定点当たり報告数は、11月が最多、週別定点当たり報告数も例年を大幅に下回り、39～47週の間小ピークが認められ、ほかは過去10年間の平均より激減した。水痘ワクチンの効果だけでなく、COVID-19に対する感染予防対策が水痘の発生数減にも役立っていると考えられた。

年齢別の実報告数では4歳以上はほぼ半減しているが、0歳から3歳までは、前年の16.5%から30.2%に上昇した。COVID-19の感染不安からのワクチンの接種控えの影響もあるかもしれないが、1回接種児の breakthrough varicella発症を避けるためにも2回目接種の完了が望まれる。

(水野 文子 記)

7.手足口病

図 7-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

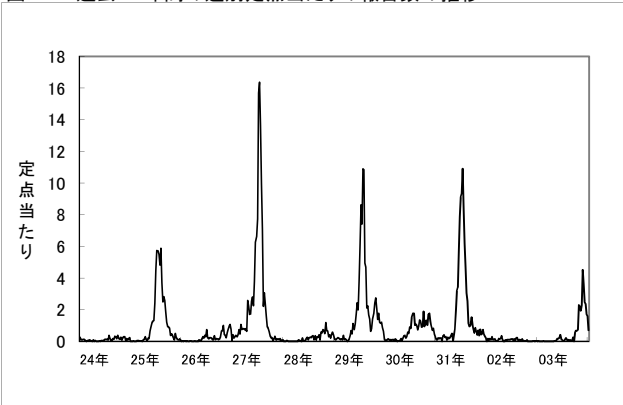


図 7-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

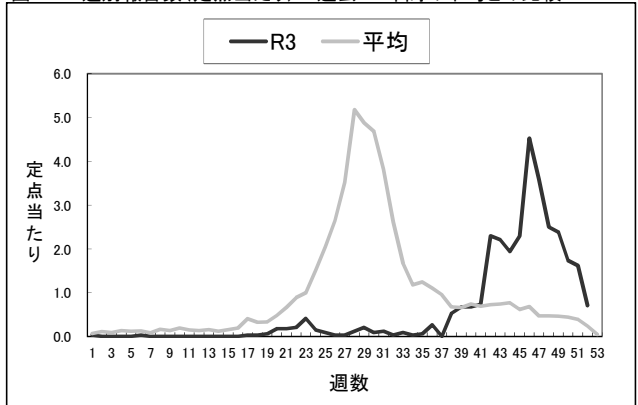


図 7-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

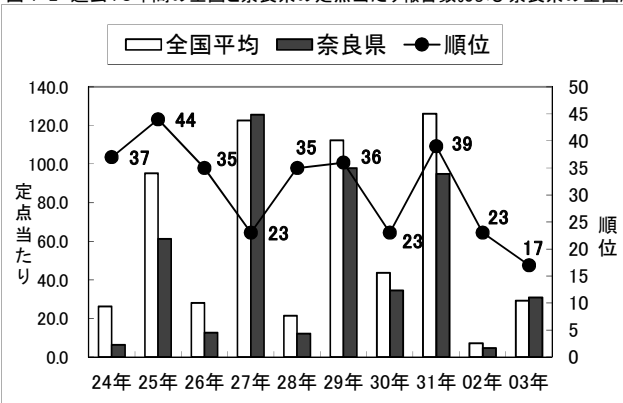


図 7-6 年齢別報告数(実数)

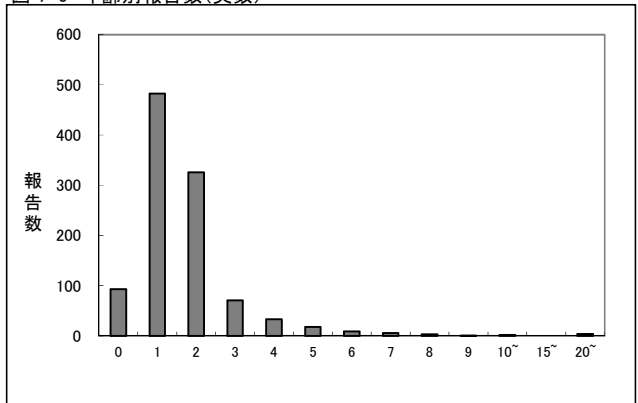


図 7-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

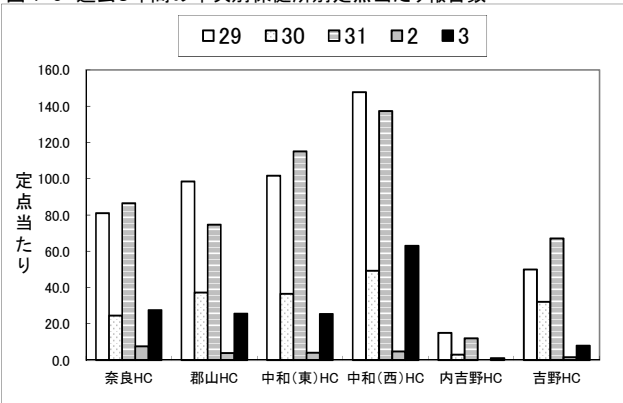
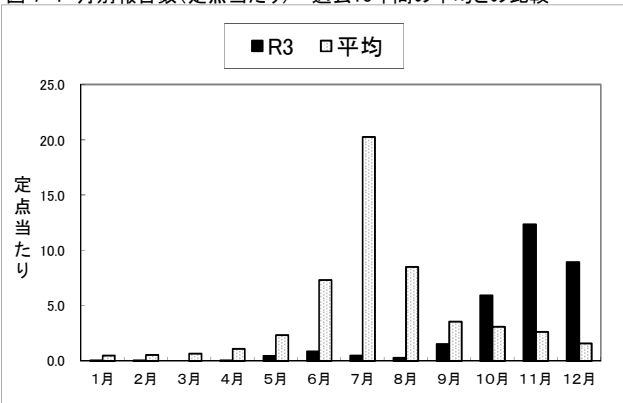


図 7-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

手足口病はこれまで隔年で流行しており、令和3年は本来流行する時期ではあったが総数で見ると非流行の時期と全体的にあまり変化はなかった。COVID-19流行に伴う手指消毒やマスク着用などの基本的感染対策が奏功したために減少しているのではないかと考えられる。

地域差は特になく、年齢別では例年と同じように1歳を中心に発生している。

2021年に特徴的と考えられたのはその発生時期にあり、夏場に流行する例年と異なり、11月～12月にそのピークが見られた。国立感染症研究所でのデータ

(<https://nesid4g.mhlw.go.jp/Byogentai/pdf/data37j.pdf>)を確認したところ、各都道府県の地方衛生研究所から分離された手足口病の原因ウイルスは2021年はCoxsackievirus A6が最多で次にCoxsackievirus A16と続いた。この傾向は2019年に同様な傾向が認められていた。非流行の年と考えられた2020年にはCoxsackievirus A16に続いてCoxsackievirus A10、2018年にはEnterovirus 71に次いでCoxsackievirus A16であり、その傾向は異なっていた。ウイルスの種類は昨年と異なっていたが一昨年とは同じであり、何故発生がずれたのか理由は不明である。

(宇野 健司 記)

8.伝染性紅斑

図 8-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

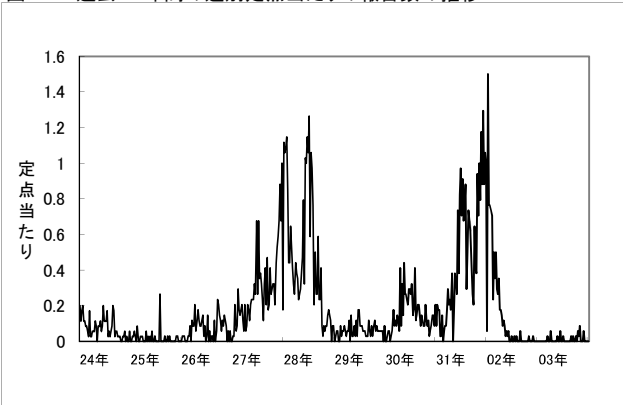


図 8-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

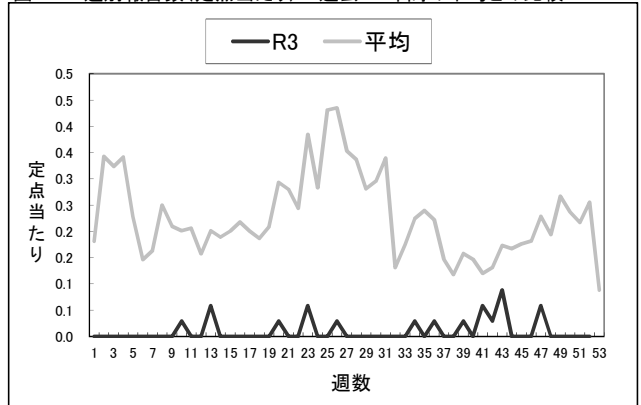


図 8-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

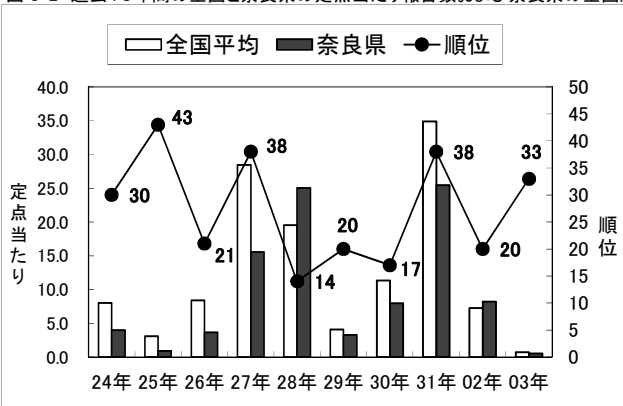


図 8-6 年齢別報告数(実数)

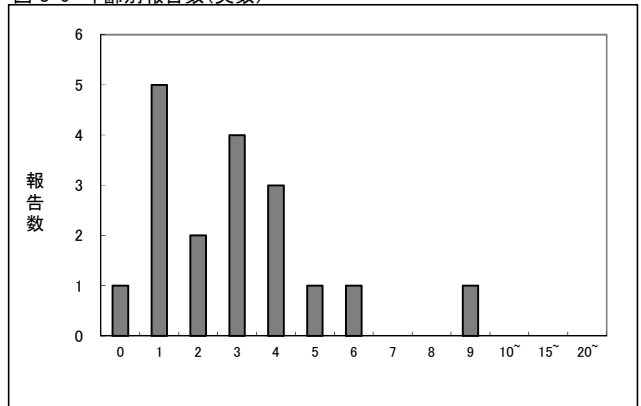


図 8-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

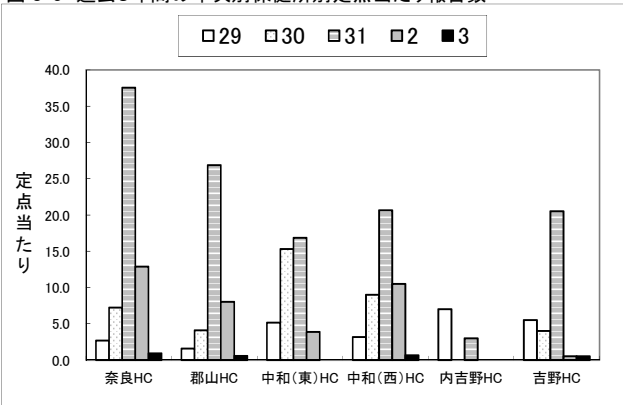
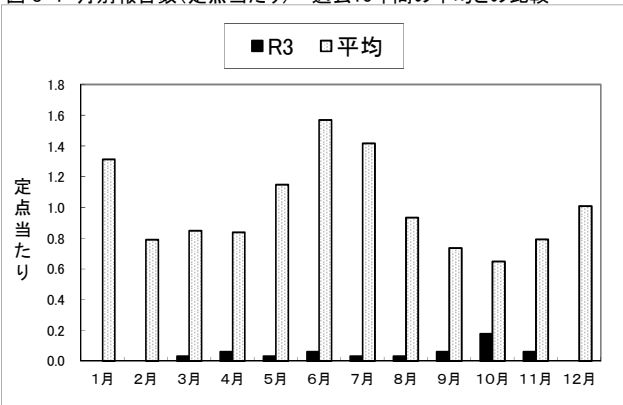


図 8-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

例年と比較し、令和3年における伝染性紅斑の発生数は令和2年と同じく激減していた。これはCOVID-19流行に伴う飛沫感染対策、接触感染対策が伝染性紅斑の流行を減らした事を示唆している。

地域差、及び月別で明らかな傾向は確認されなかった。好発年齢は例年は4～6歳となっているが、本年は1歳～3歳であった。しかし、報告の絶対数が少ないため特異的な傾向を示しているとは考えにくい。

伝染性紅斑は主にヒトパルボウイルスB19による感染症である。ヒトパルボウイルスは赤芽球前駆細胞に感染し破壊する事が有るため、妊婦が初感染で胎児まで感染が及んだ場合、胎児の赤血球は減少し重症胎児貧血による胎児水腫が原因で死産に至る可能性がある。また、流産や子宮内胎児発育遅延の原因にもなり、特に家庭内に好発年齢がいる妊婦は細心の注意を要する。

(宇野 健司 記)

9.突発性発しん

図 9-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

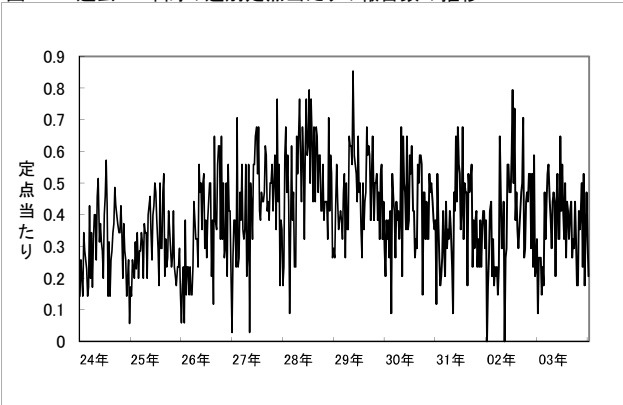


図 9-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

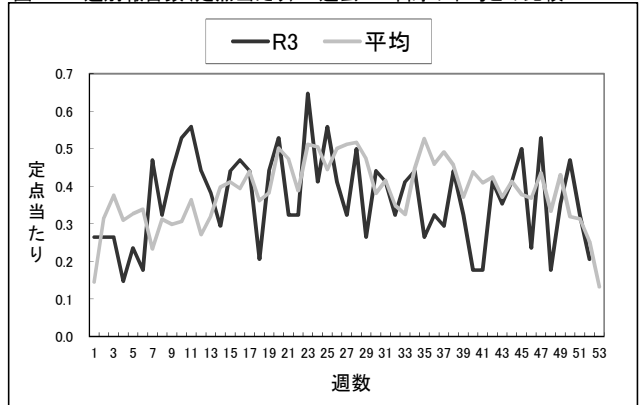


図 9-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

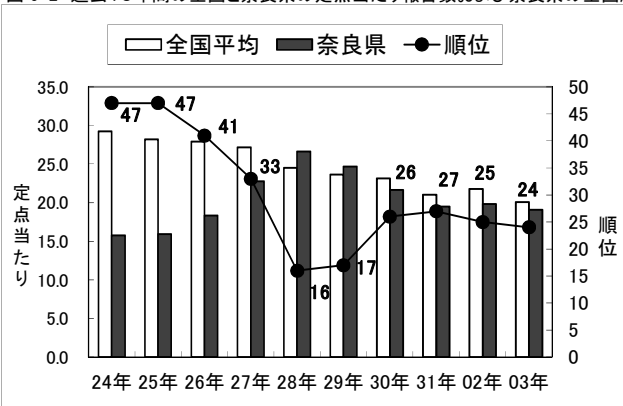


図 9-6 年齢別報告数(実数)

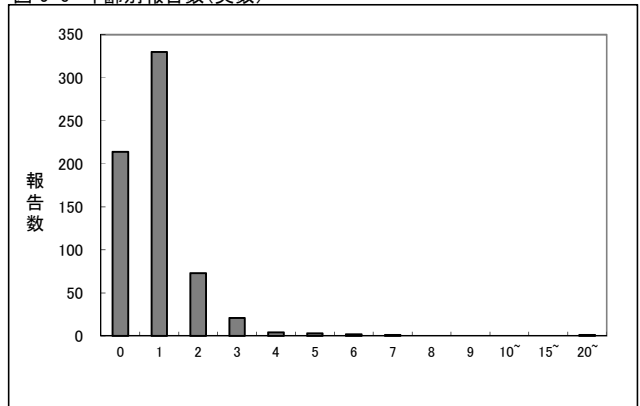


図 9-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

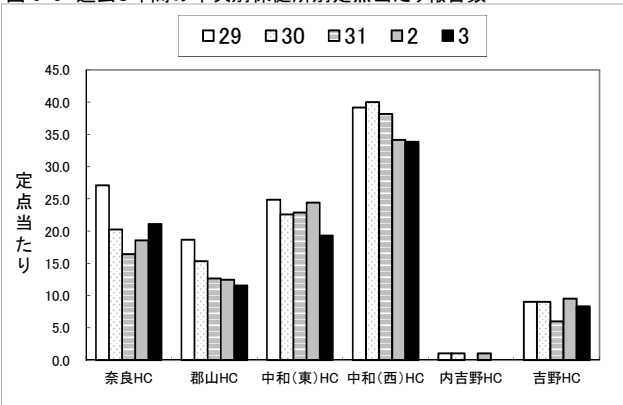
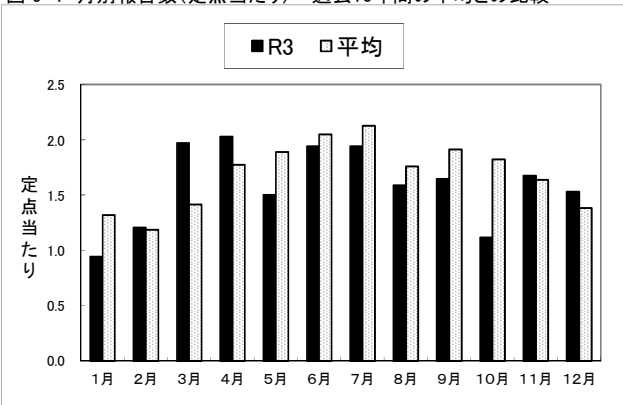


図 9-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

令和3年における定点あたりの報告数は19.1(全国平均20.1)で、伝染性紅斑、手足口病と異なり例年とほぼ同じような発生数を示した。週別の定点あたりの発生数も例年とほぼ変化はなく、好発年齢も特に例年と変化はなかった。保健所別の定点あたりの報告数も例年とほぼ変化はなかった。

これは、手足口病の原因ウイルスであるコクサッキーやエンテロウイルスと突発性発疹の原因ウイルスであるHHV-6やHHV-7は同じ接触感染・飛沫感染の感染経路を持つが、HHV-6あるいはHHV-7が外的な流行というよりも家族内での感染が考えられる。

HHV-6はそもそも成人では唾液から分泌されている事が報告されており(Human herpesvirus 6: An emerging pathogen. Emerg Infect Dis. 1999; 5(3):353-366.)、親から子への伝播が疑われる。症状は一定の割合で顕在化すると考えられ、それによってCOVID-19でも変わらない発生数であったと考えられる。

(宇野 健司 記)

10.ヘルパンギーナ

図 10-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

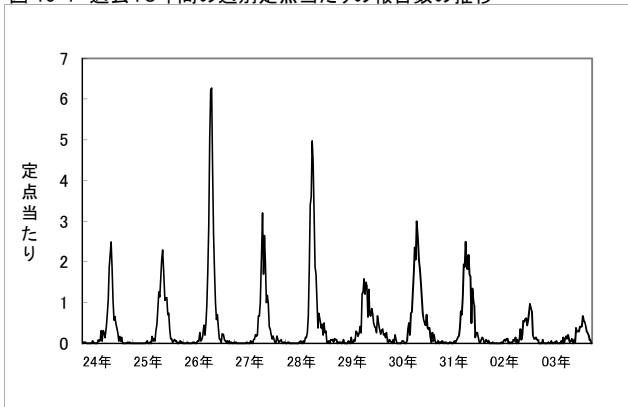


図 10-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

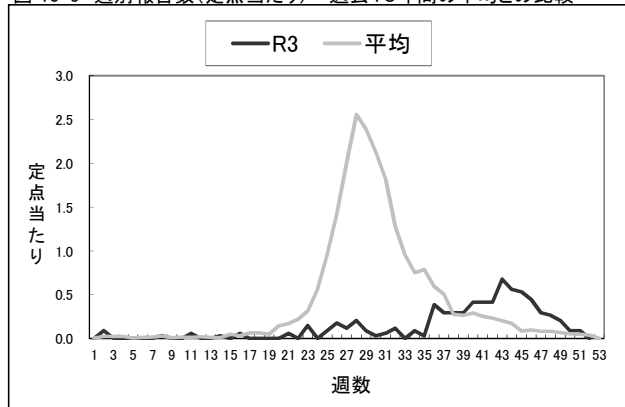


図 10-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

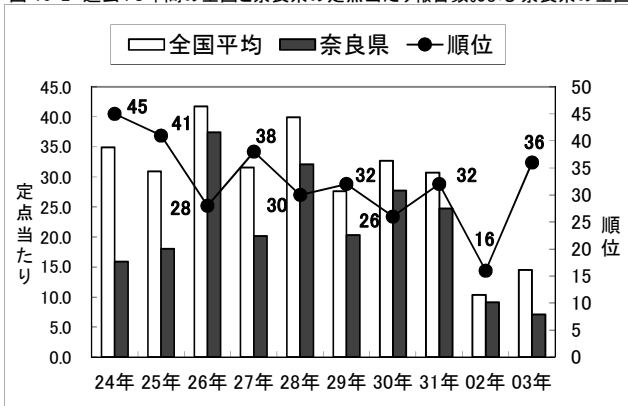


図 10-6 年齢別報告数(実数)

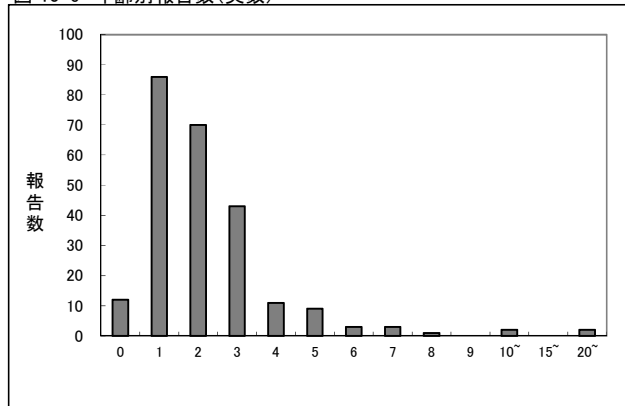


図 10-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

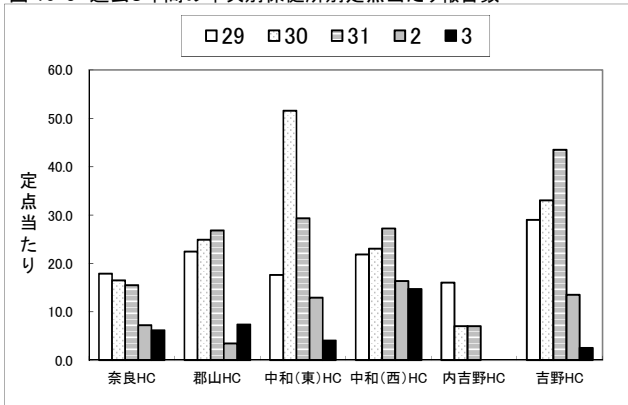
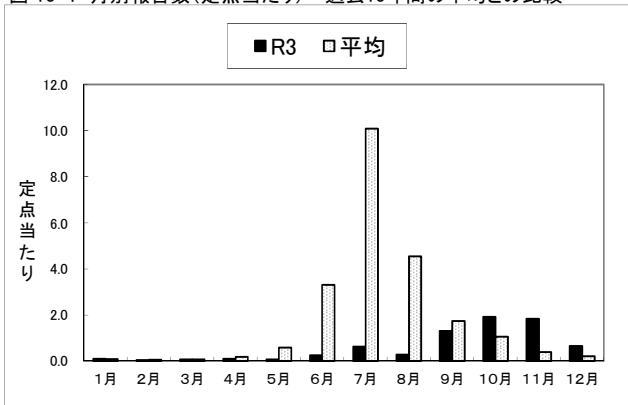


図 10-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

R3の奈良県の報告数は242人(定点当たり7.12)であった。

【図10-1】過去10年間での最多の週は、H26の第29週(6.26)(213人)であった。R3では第43週(0.68)(23人)で、ピークの高さが過去10年間で最も低い年となった。

【図10-2】奈良県は、R2に9.15(全国第16位)と過去10年で最少であったが、R3は7.12(全国第36位)となり、10年連続で全国平均を下回った。

【図10-3】R3は①中和(西)(14.67)、②郡山(7.33)、③奈良市(6.11)、④中和(東)(4.00)、⑤吉野(2.50)、⑥内吉野(0.00)の順であった。また、同一保健所管内での推移では、郡山を除く5保健所管内においてはR3が過去5年間での最少であった(内吉野はR2、R3とも0.00)。

【図10-4】最多の月は、10年平均が7月(10.08)で、R3は10月(1.91)であった。

【図10-5】最多の週は、10年平均が第28週(2.56)で、R3は第43週(0.68)(23人)であった。

【図10-6】0歳が12人。1歳が86人で最多であった。以下、9歳(0人)まで年齢が高くなると共に漸減傾向であった。また、年齢階級別報告数は[10-14歳](2人)、[20-29歳](2人)であった。

(柳生 善彦 記)

11.流行性耳下腺炎

図 11-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

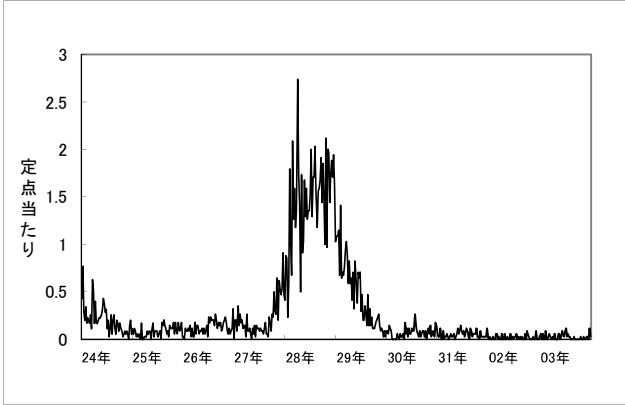


図 11-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

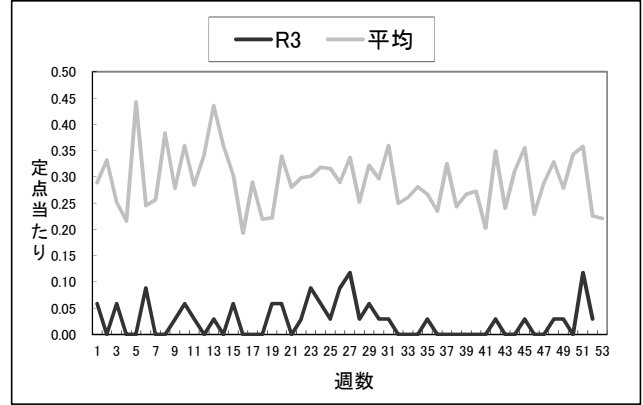


図 11-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

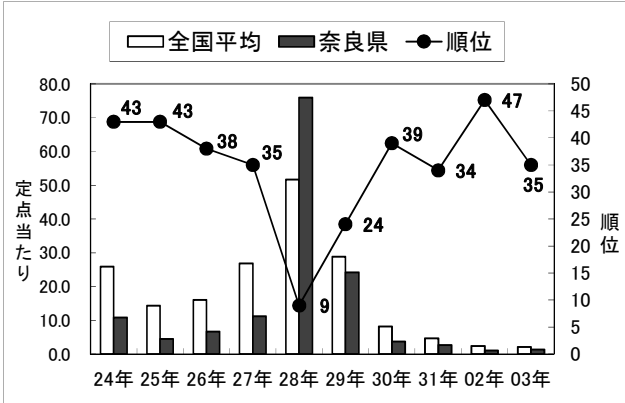


図 11-6 年齢別報告数(実数)

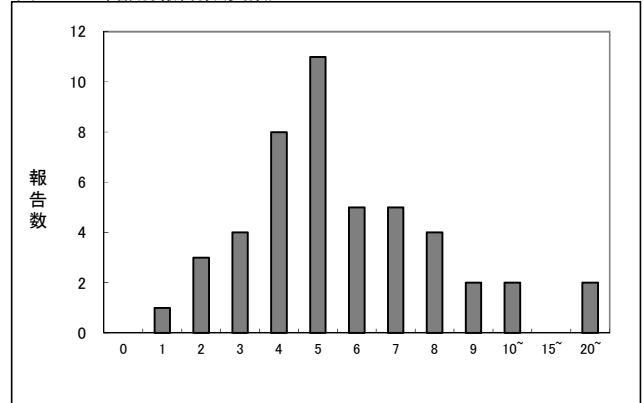


図 11-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

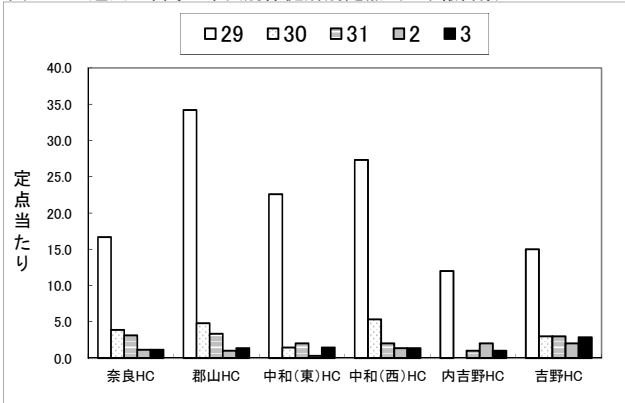
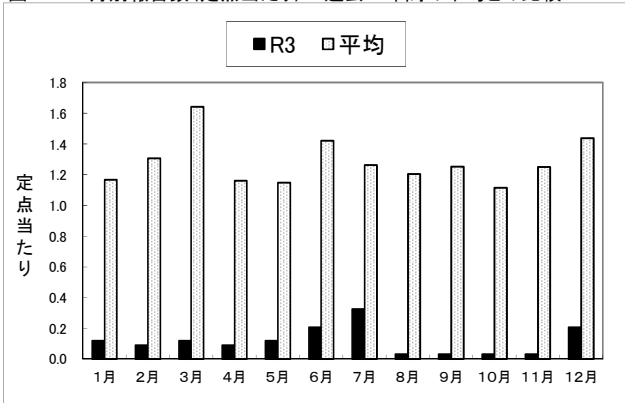


図 11-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

R3の奈良県の報告数は47人(定点当たり1.38)であった。

【図11-1】過去10年間での最多の週は、H28の第13週(2.74)(93人)であった。

【図11-2】全国平均はR3(2.13)が過去10年間で最少であった。奈良県はR2(1.03)(47位)が最少であったが、R3(1.38)(35位)は増加となった。過去10年間で奈良県の方が上回っていたのは、H28(奈良県76.00, 全国平均51.71)の1回のみ。

【図11-3】R3は①吉野(2.83)、②中和(東)(1.43)、③郡山(1.33)、③中和(西)(1.33)、⑤奈良市(1.11)、⑥内吉野(1.00)の順であった。また、同一保健所管内での推移では、奈良市、中和(西)においてR2,R3が同数で、2年連続、過去5年間で最少であった。

【図11-4】最多の月は、10年平均が3月(1.64)で、R3は7月(0.32)であった。

【図11-5】10年平均では、1年を通して0.19(第16週)~0.44(第5週,第13週)の振幅内での推移であった。一方、R3は、0~0.12(4人)(第27週,第51週)の上下幅内での推移であった。

【図11-6】5歳(11人)が最多で、次が4歳(8人)。最少は0歳(0人)であった。年齢階級別報告数は[10-14歳]、[20-29歳] (各2人)であった。

(柳生 善彦 記)

眼科定点分

12.急性出血性結膜炎

図 12-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

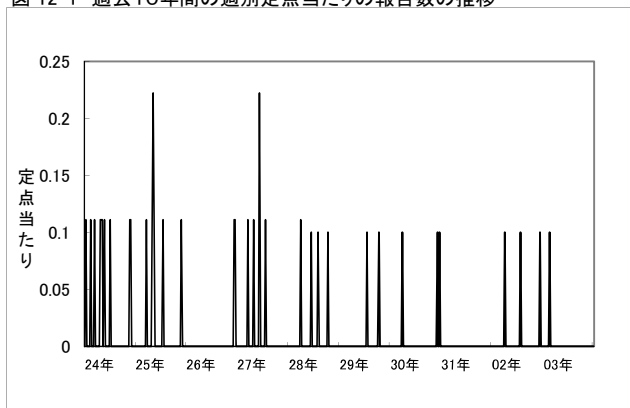


図 12-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

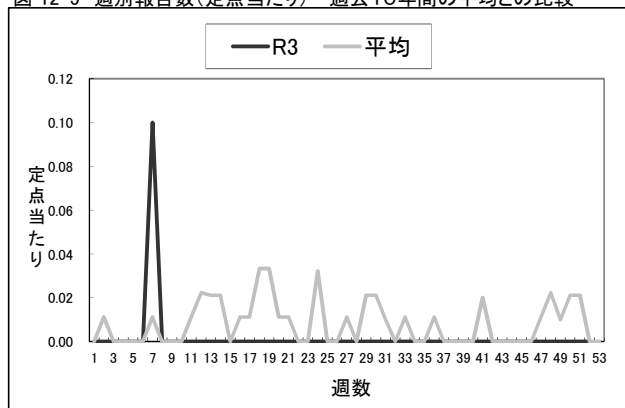


図 12-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

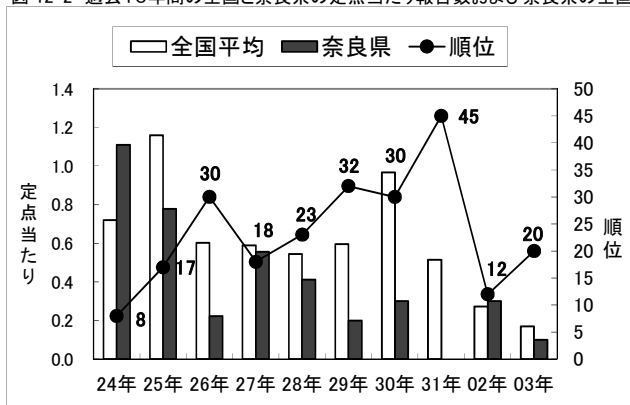


図 12-6 年齢別報告数(実数)

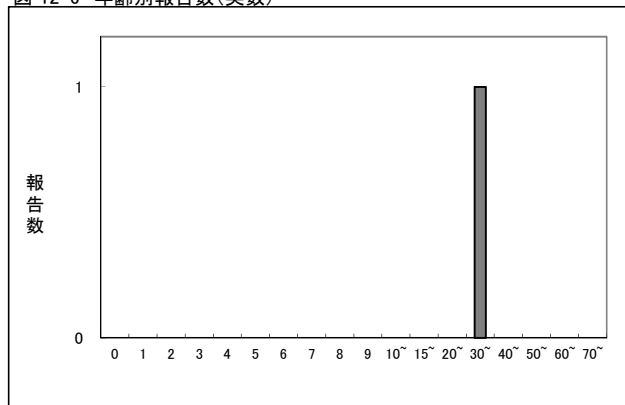


図 12-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

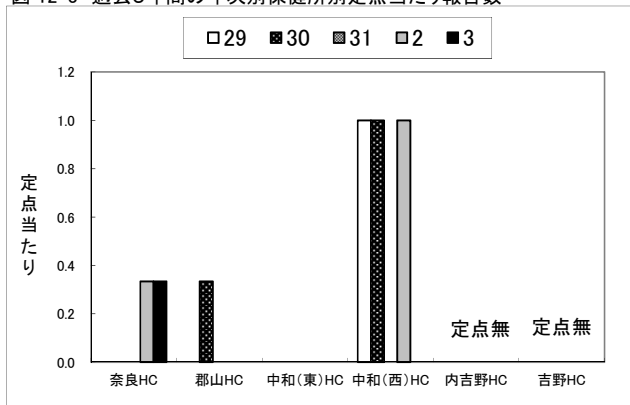
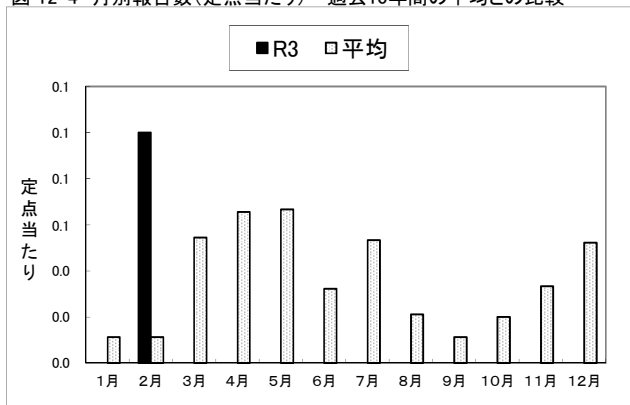


図 12-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

県内定点では1例報告があった。2月に1例で、地域では奈良1例であった。年齢別では30歳台1例であった。全国順位は20位であった。

(平井 宏明 記)

13.流行性角結膜炎

図 13-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

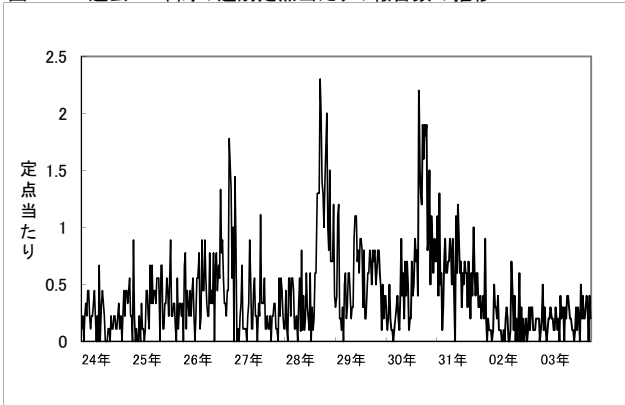


図 13-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

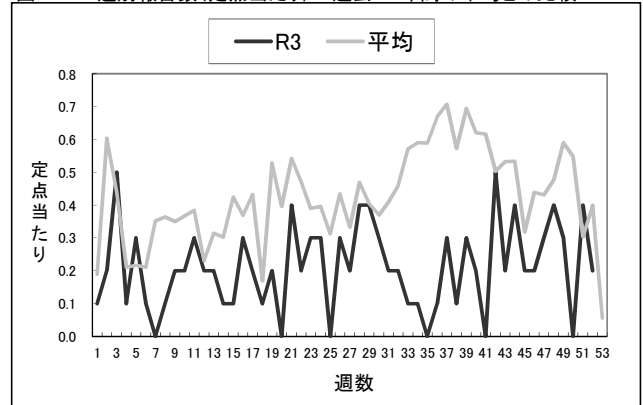


図 13-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

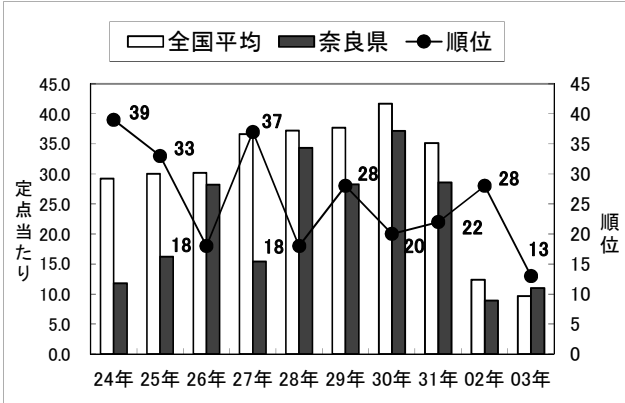


図 13-6 年齢別報告数(実数)

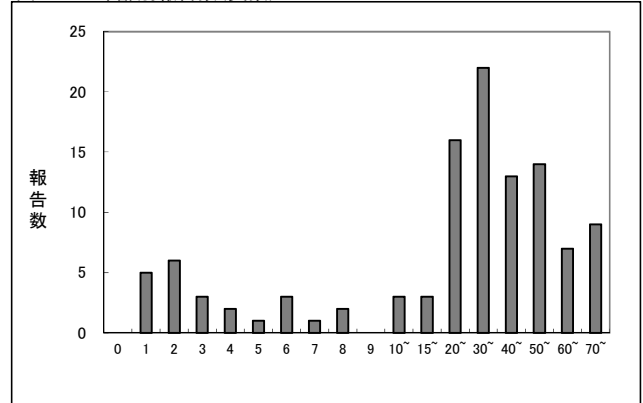
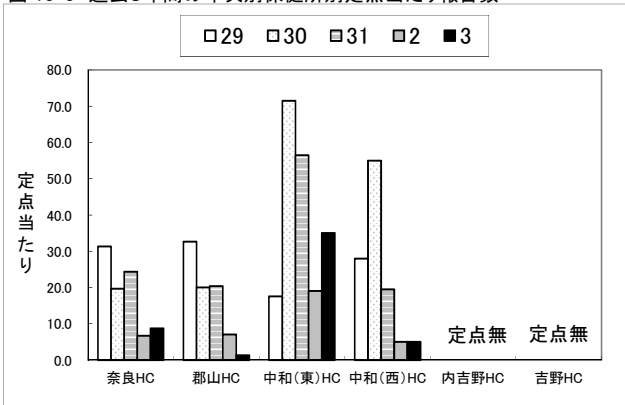


図 13-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

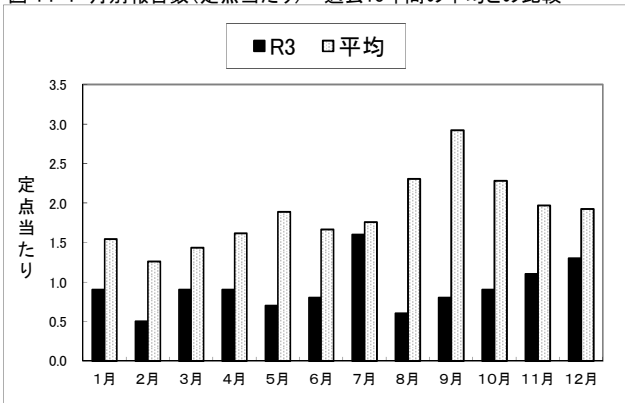


コメント

県内定点全体では110例の報告があった。前年の89例の1.23倍に増加していた。奈良県の定点あたりの報告数(R3年は11)は、全国平均(R3年は9.7)の1.33倍であった。全国平均の9.7と比較すると、奈良県は11で、順位は13位と昨年の28位より上がった。7月に定点あたりの報告数が1.5を超えたものの、例年なら多い8, 9, 10月の報告が少なかった。定点あたりの報告数では、中和東が35と特に多く、奈良8.7、中和西5、郡山1.33と続き、一方、吉野、内吉野では報告がなかった。年齢では20歳台から50歳台が65例と59%を占め、成人の感染例が多いことが特徴的であった。小児では1, 2歳が多かった。幼児からその両親、祖父母へと広がった可能性が示唆された。

(平井 宏明 記)

図 14-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



基幹定点分(週報)

14.細菌性髄膜炎

図 14-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

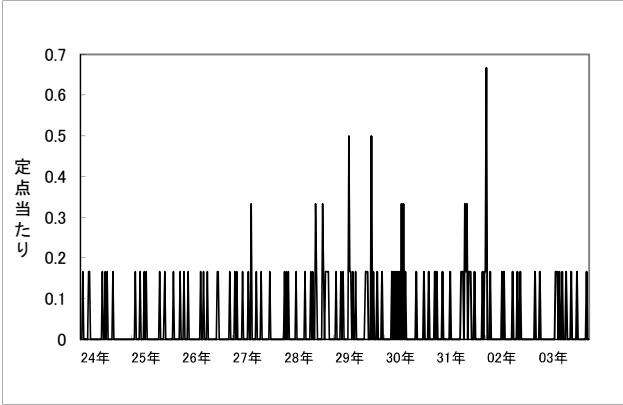


図 14-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

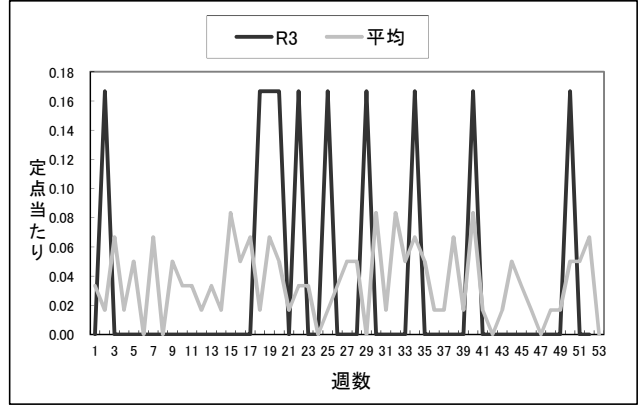


図 14-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

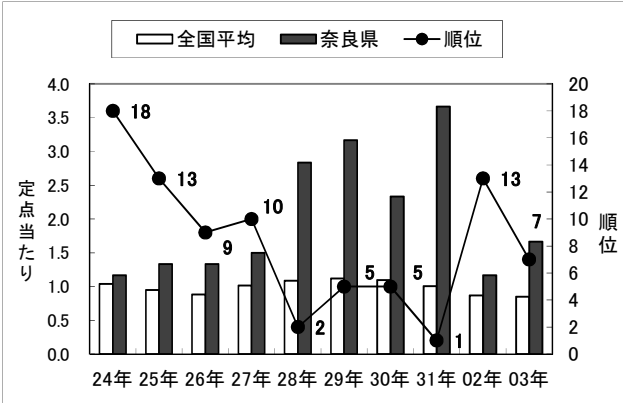


図 14-6 年齢別報告数(実数)

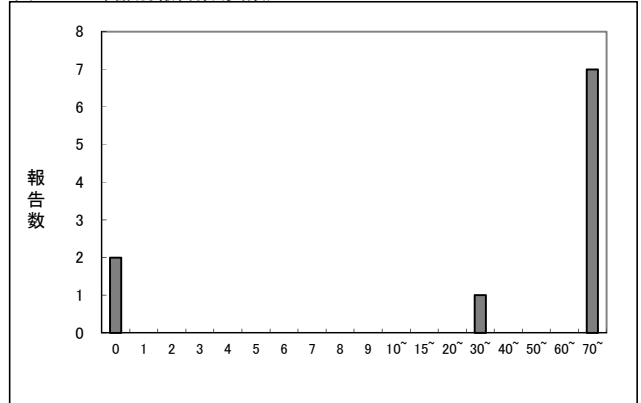


図 14-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

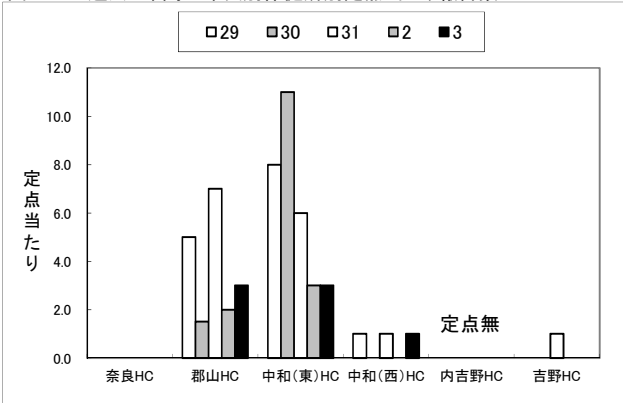
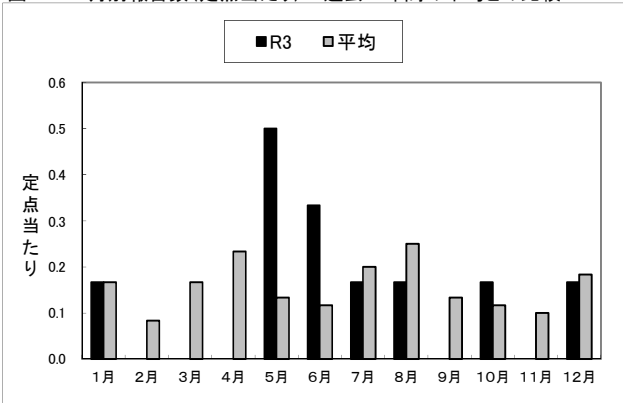


図 14-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

令和3年の奈良県における全報告数は10例で、定点あたりの報告数は1.7であった。定点あたりの報告数は全国平均の0.85と比較して明らかに高い値である。奈良県はこれまでも細菌性髄膜炎の報告数が多い県であり、令和元年は全国ワースト1位、令和2年はワースト13位、令和3年はワースト7位と、全国と比べ例年多い傾向にある。年齢別では、去年は30代以下からは報告されなかったが、令和2年は0歳児から2例の報告があった。また、70歳以上の高齢者から7例と多くみられた。高齢者のワクチン接種状況や他県との接種率の差は不明だが、最も頻度の高い肺炎球菌へのワクチン接種の実施率上昇の余地がいまだ残されていると思われる。

(矢野 寿一 記)

15.無菌性髄膜炎

図 15-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

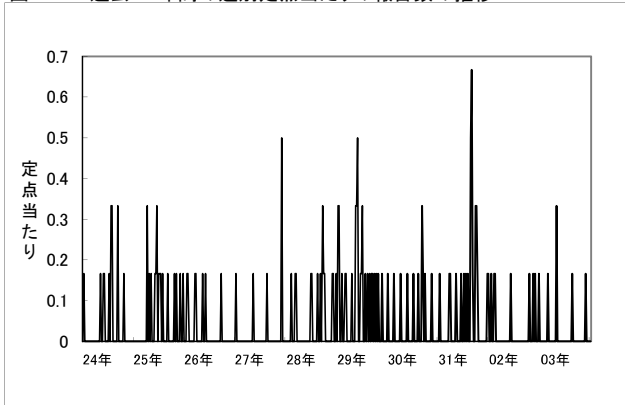


図 15-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

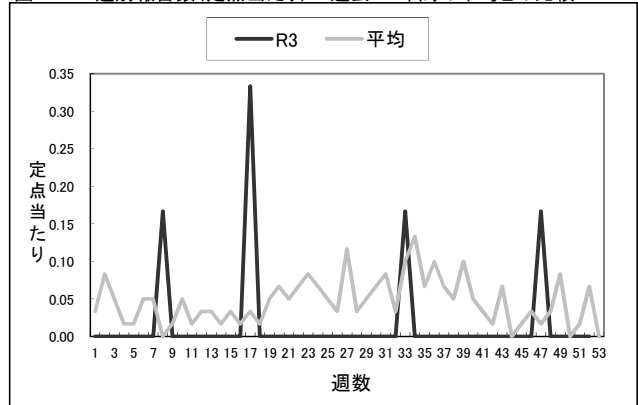


図 15-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

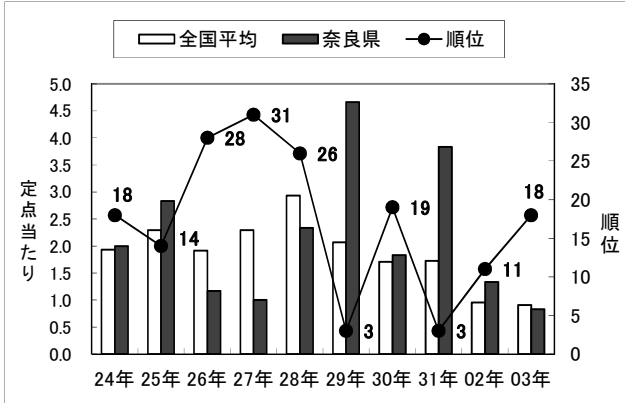


図 15-6 年齢別報告数(実数)

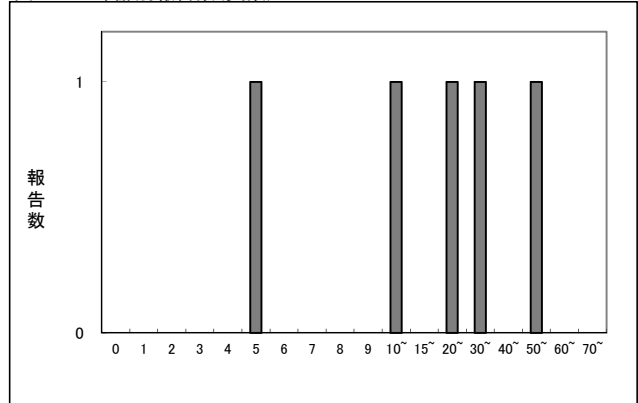


図 15-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

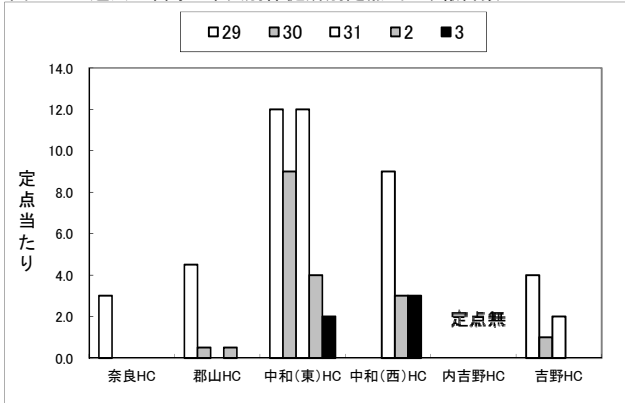
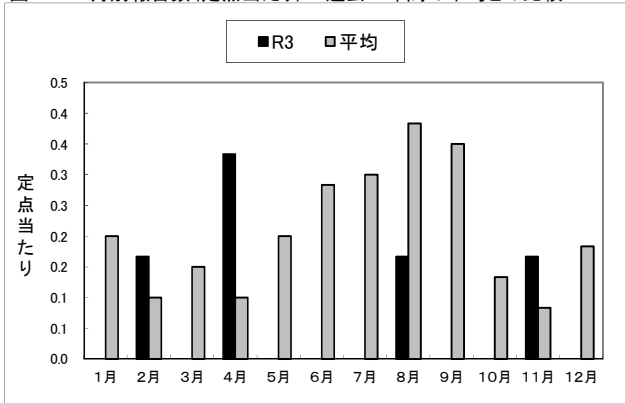


図 15-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

奈良県における令和3年の全報告数は5例、定点当たりの報告数は0.83であった。近年、奈良県からの無菌性髄膜炎報告数は多い傾向にあり、令和元年は全国ワースト3位、令和2年はワースト11位、令和3年は18位であった。
無菌性髄膜炎は、エンテロウイルス属であるコクサッキーウイルス、エコーウイルスなどが原因となることが多いことから、例年、初夏から増加し始め、夏から秋にかけて流行が見られる傾向にある。令和2年もそうであったが、令和3年も例年の傾向からはずれ、季節性はみられなかった。新型コロナウイルス感染症蔓延によるウイルス干渉や感染対策などが影響した可能性も考えられる。

(矢野 寿一 記)

16.マイコプラズマ肺炎

図 16-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

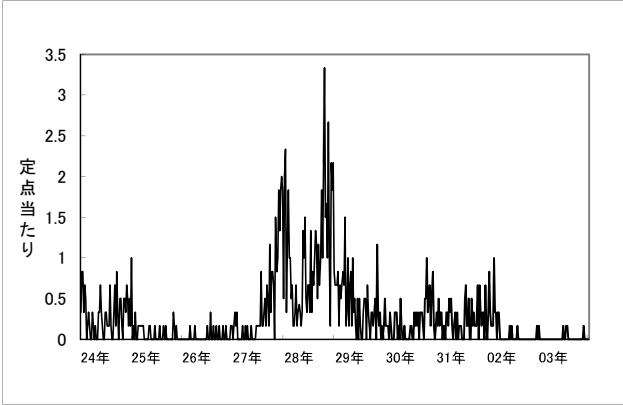


図 16-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

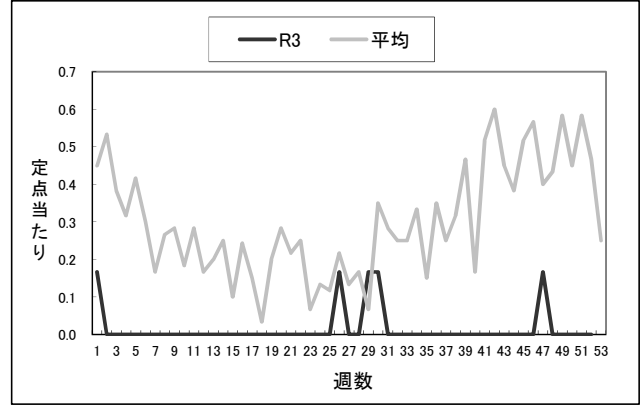


図 16-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

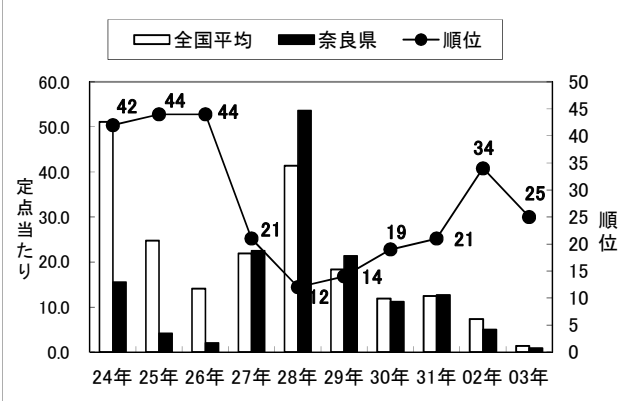


図 16-6 年齢別報告数(実数)

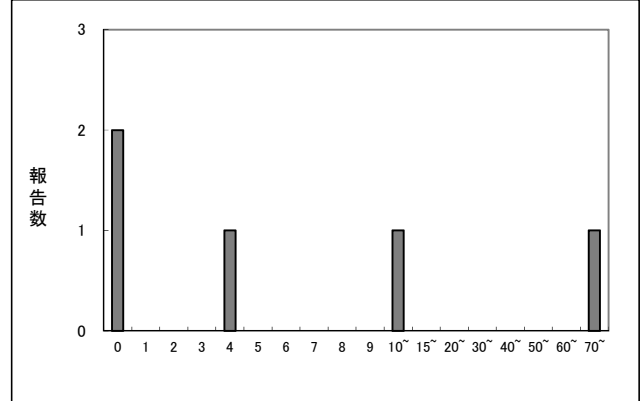


図 16-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

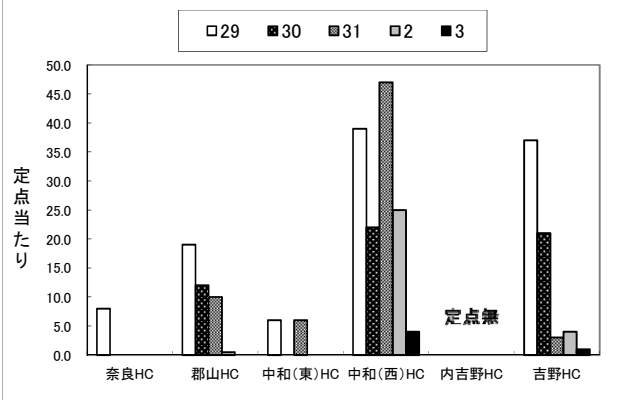
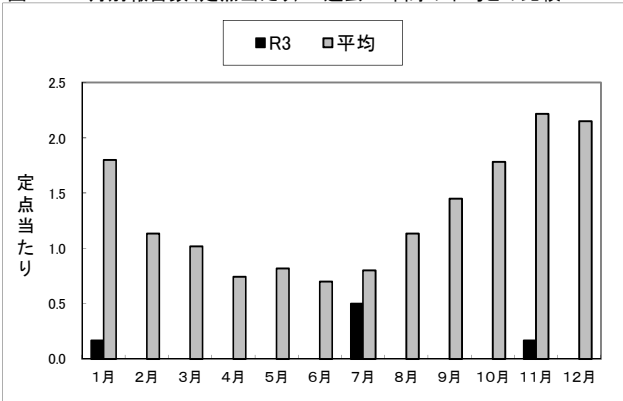


図 16-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

奈良県における令和3年の全報告数は5例、定点あたりの報告数は0.83で、令和2年のそれぞれ30例、5.0と比べ大きく減少している。図16-5にあるように、定点あたり週別報告数は、令和3年は過去10年の平均値と比較しかなり低値と言える。この傾向は奈良県に限った傾向ではなく、全国においても定点あたり報告数は1.38と平成24年以降で最小値となっている。平成28年にマイコプラズマ肺炎の全国的な流行があったが、その後は大きな流行はみられていない。

(矢野 寿一 記)

17.クラミジア肺炎

図 17-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

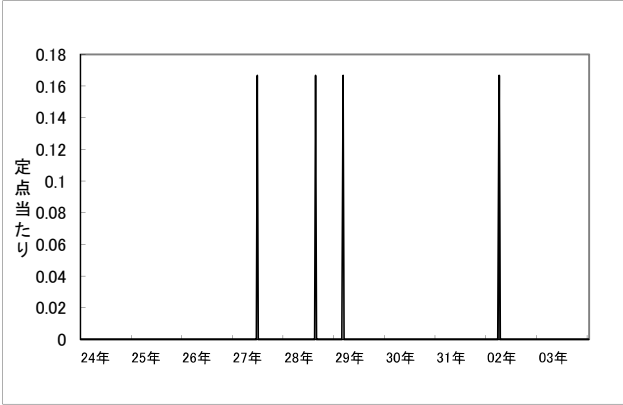


図 17-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

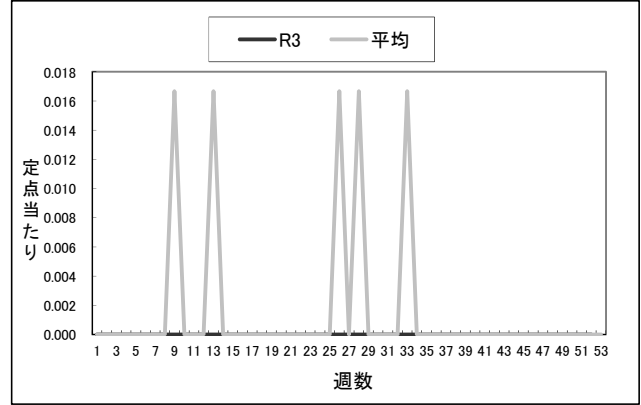


図 17-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

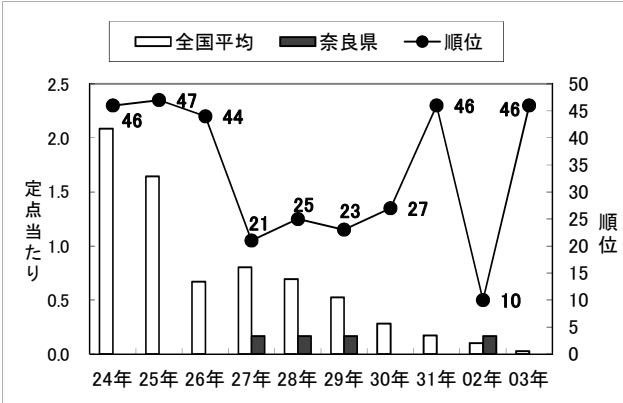


図 17-6 年齢別報告数(実数)

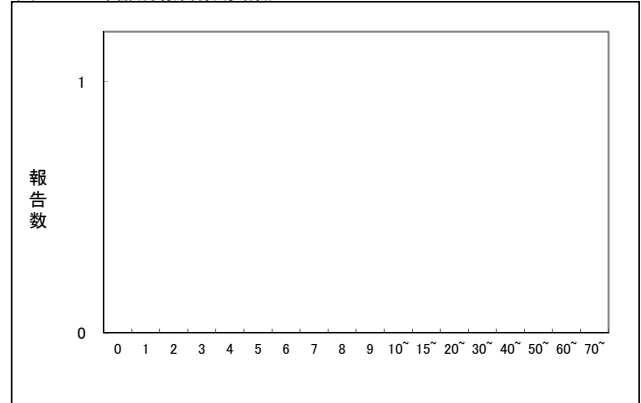


図 17-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

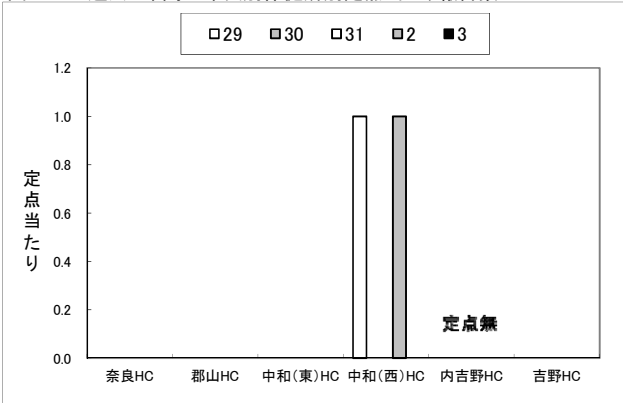
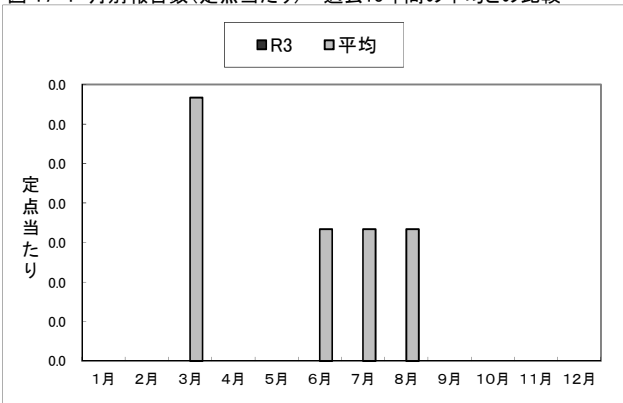


図 17-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

令和3年における奈良県の全報告数は0例、定点あたりの報告数も0であった。過去にも令和元年、平成30年など、検出0の年もみられた。診断が難しいこともあり、例年通り低い検出数で推移していることには変わりはないようである。

(矢野 寿一 記)

18. 感染性胃腸炎(ロタウイルス)

図 18-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

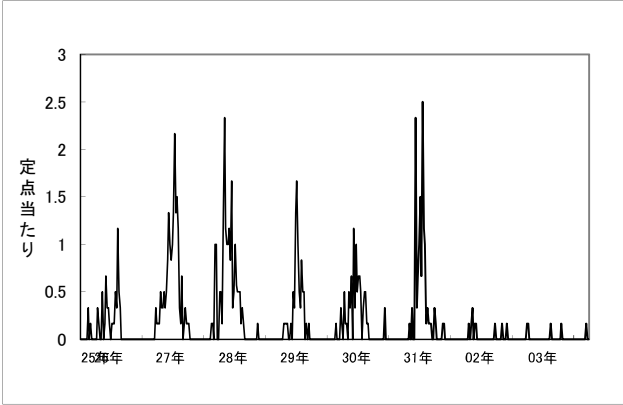


図 18-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

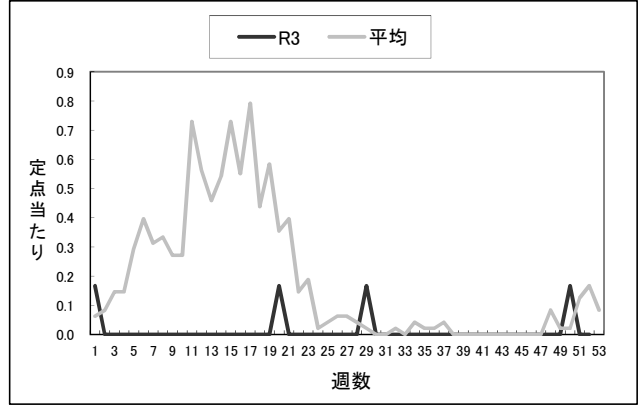


図 18-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

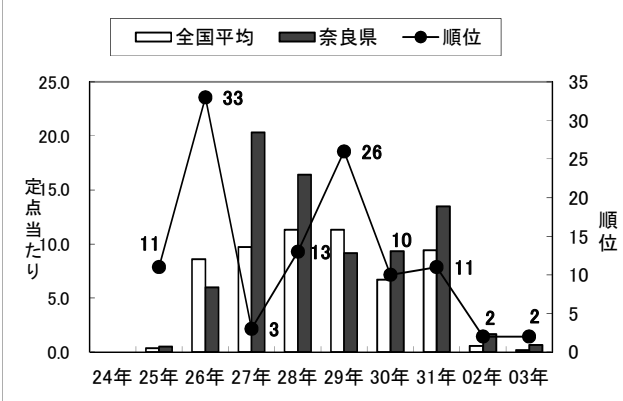


図 18-6 年齢別報告数(実数)

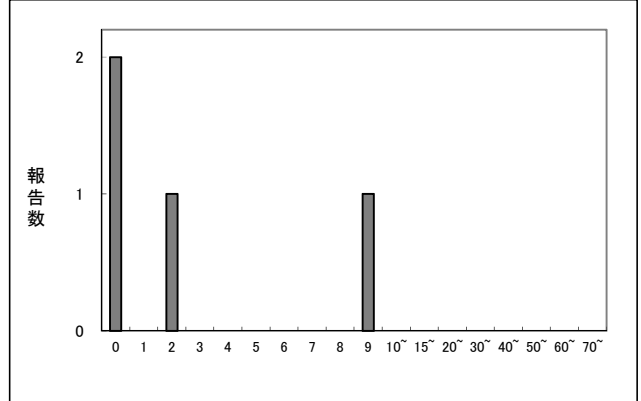


図 18-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

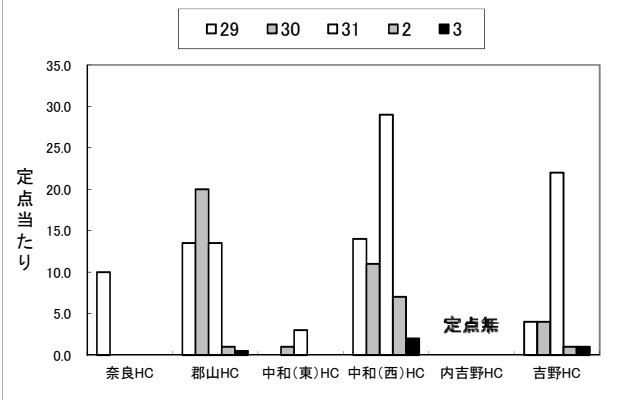
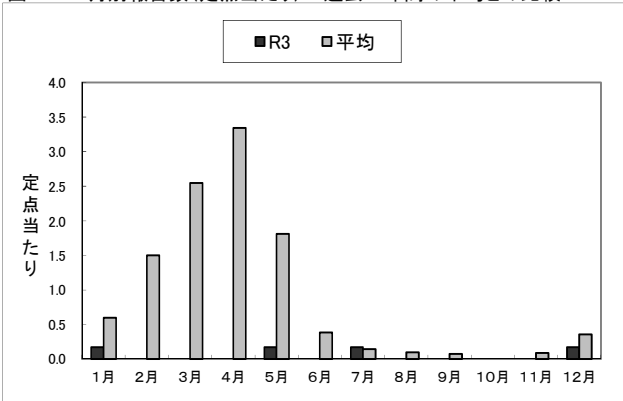


図 18-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

令和3年の奈良県における全報告数は4件で、定点あたりの報告数は0.67であった。令和元年、令和2年の全報告数はそれぞれ81件、10件、定点あたりの報告数はそれぞれ13.5、1.67と大きく改善しているが、全国順位は令和2年に続きワースト2位であった。全国の定点あたり報告数も平成29年以降減少しており、平成29年の11.32から令和3年は0.19で、減少傾向は全国的なことである。ロタウイルスワクチン導入によることが推察される。

(矢野 寿一 記)

性感染症(STD)定点分

19.性器クラミジア感染症

図 19-1 過去10年間の月別定点当たりの報告数の推移

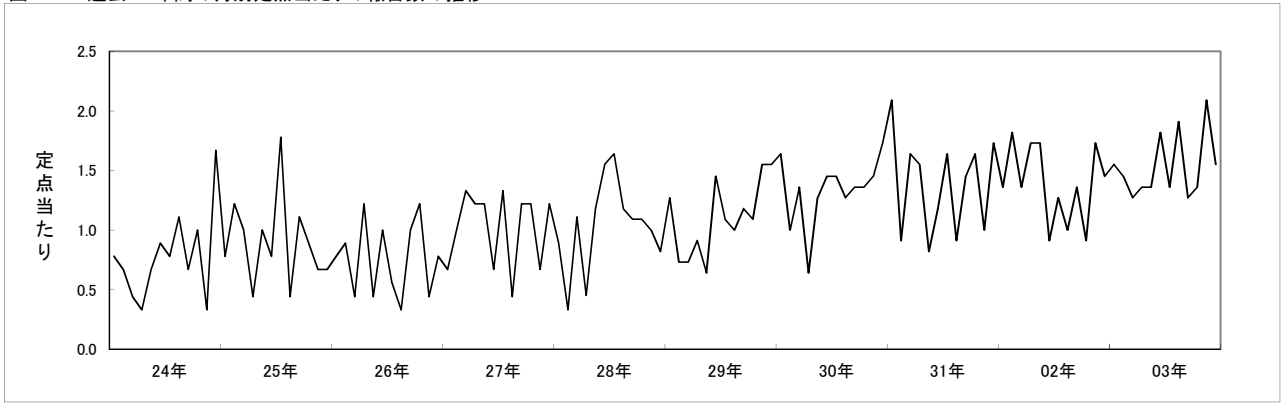


図 19-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数

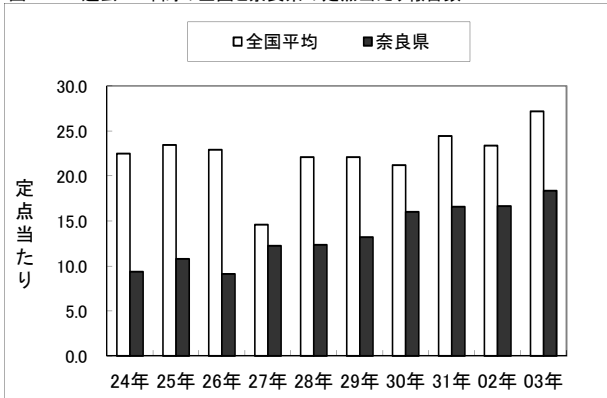


図 19-5 年齢別報告数(実数)

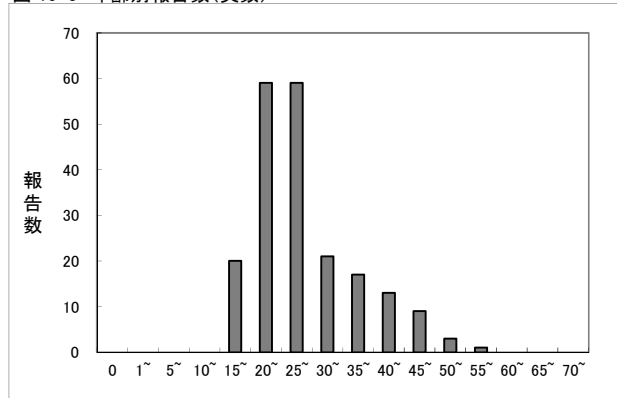
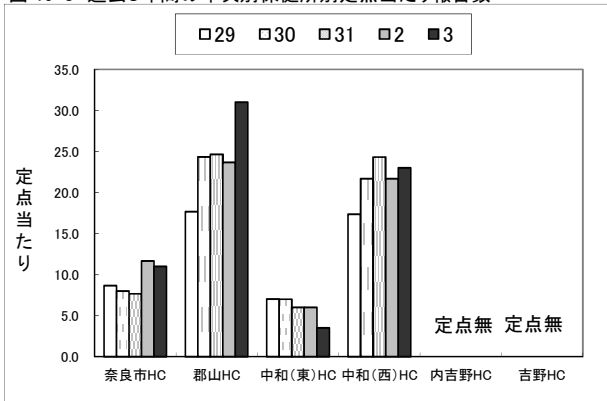


図 19-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

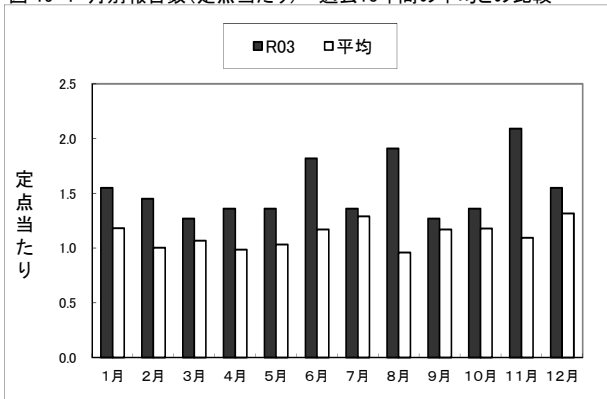


コメント

例年同様、4疾患の中で定点当たりの報告数で第1位であり、全国的には35位と下位であった。報告数は全国と同様に徐々に増加している。保健所別では、郡山が第1位で、続いて中和(西)が多く、例年と同じ結果であった。月別では報告数は平均的であるが各月で増加しており、やや夏場に多い傾向がみられた。年齢別では20～29歳が圧倒的に多く、最年少は15～19歳、最高齢は55～59歳であった。

(三馬 省二 記)

図 19-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



20.性器ヘルペスウイルス感染症

図 20-1 過去10年間の月別定点当たりの報告数の推移



図 20-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数

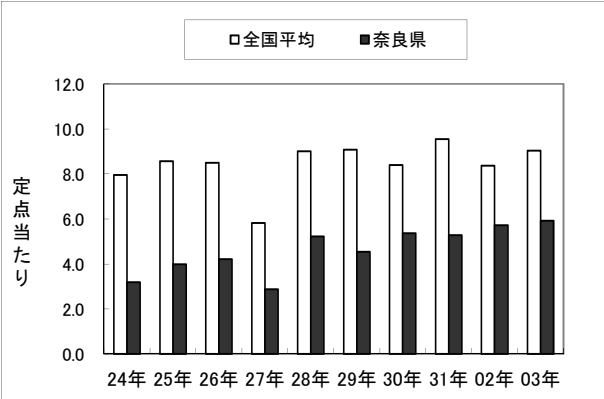


図 20-5 年齢別報告数(実数)

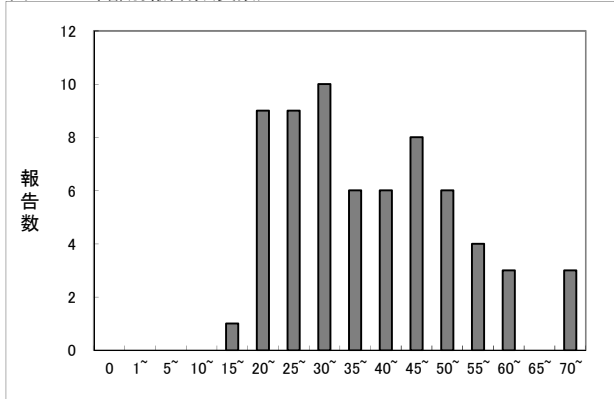
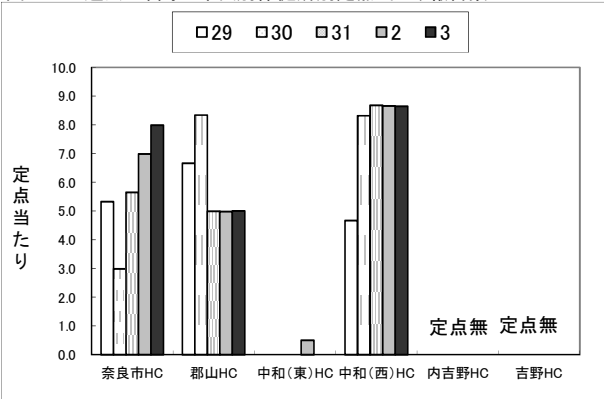


図 20-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

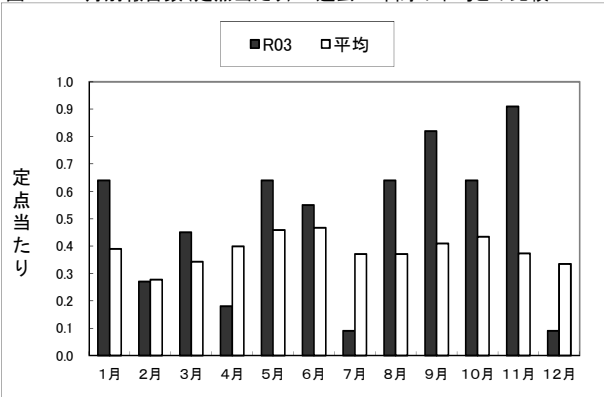


コメント

定点当たりの報告数は4疾患中第3位で、全国では35位と下位であったが、例年と比較して微増傾向にある。保健所別では、例年通り中和(西)が第1位であるが、奈良市が2番目に多く増加が顕著であった。月別では、4月、7月、12月の減少が顕著で、1月、5月、8-11月の増加が著明であった。年齢別では、20歳~50歳代まで平均的に報告があった。最年少は15~19歳、最高齢は70歳代以降で、広い年齢分布が観察された。

(三馬 省二 記)

図 20-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



21.尖圭コンジローマ

図 21-1 過去10年間の月別定点当たりの報告数の推移

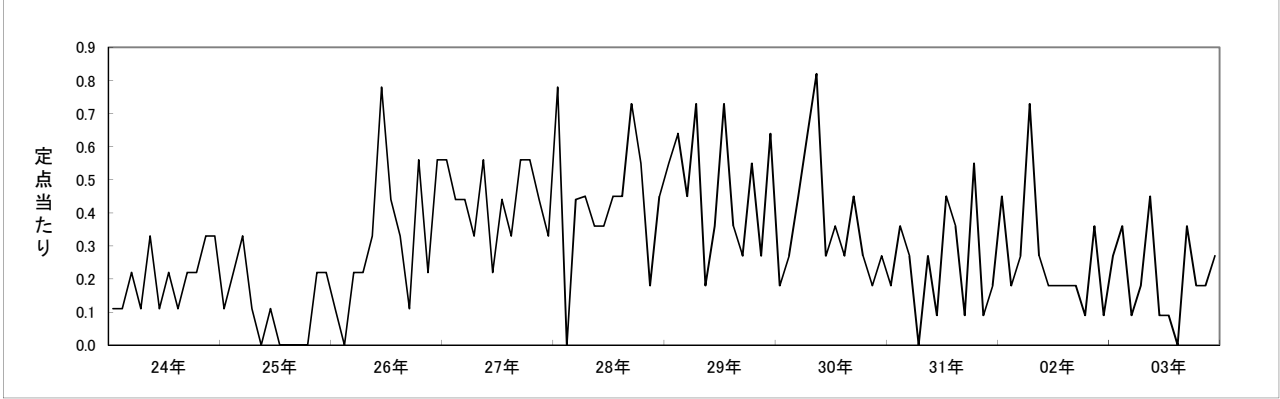


図 21-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数

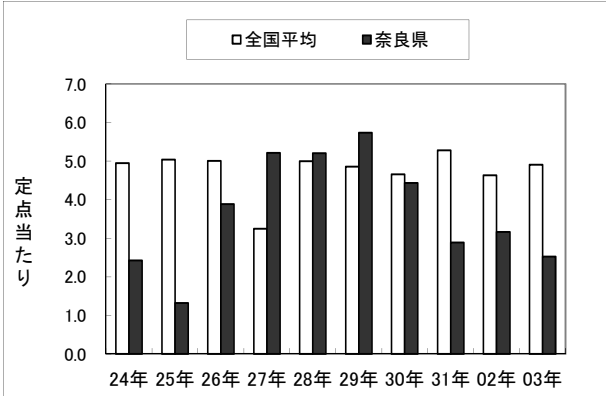


図 21-5 年齢別報告数(実数)

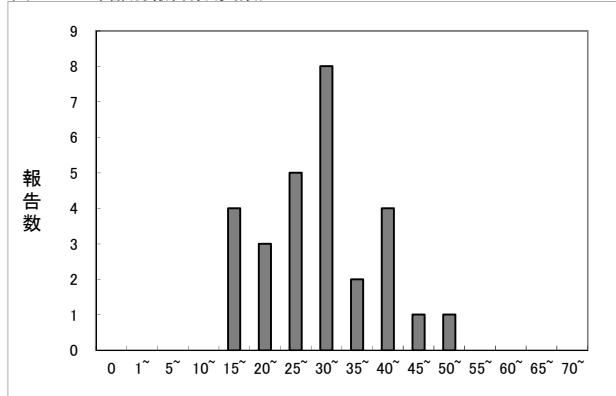
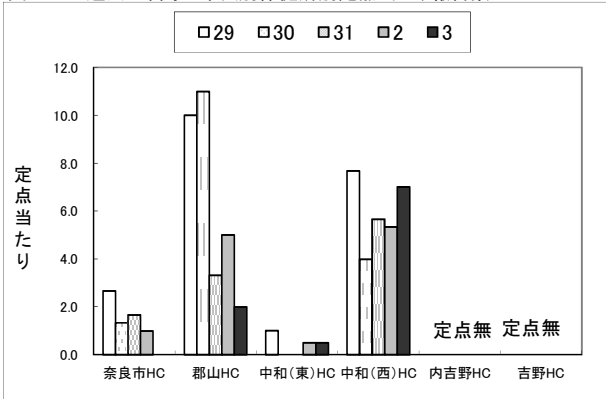


図 21-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

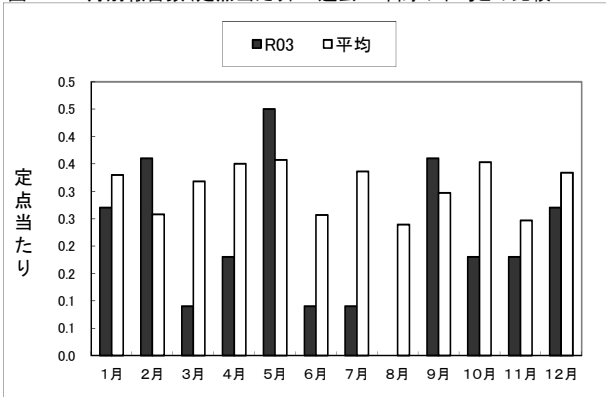


コメント

定点当たりの報告数は4疾患で最も少なく、全国では40位と下位であった。報告数は全国では横ばいであるのに対して、奈良県ではこの数年は年々減少傾向にある。保健所別では、中和(西)が増加しているが、過去に第1位であった郡山の減少が著明である。月別では全国は平均的であるのに対して、奈良県では6月～8月の減少が著明であった。年齢別では30～34歳が第1位であったが、他の疾患に比較して15～19歳が多いのが特徴的である。最高齢は50歳代で高齢層の報告がなかった。

(三馬 省二 記)

図 21-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



22.淋菌感染症

図 22-1 過去10年間の月別定点当たりの報告数の推移

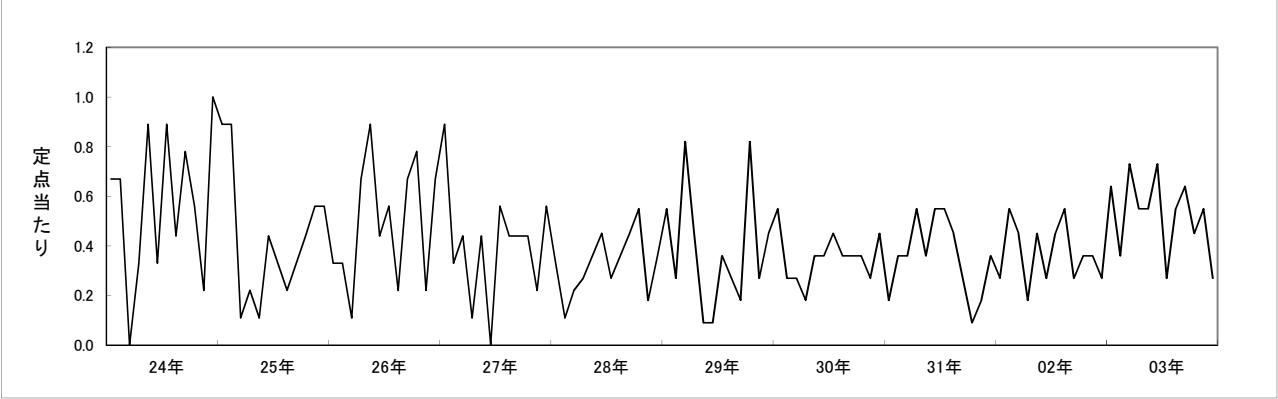


図 22-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数

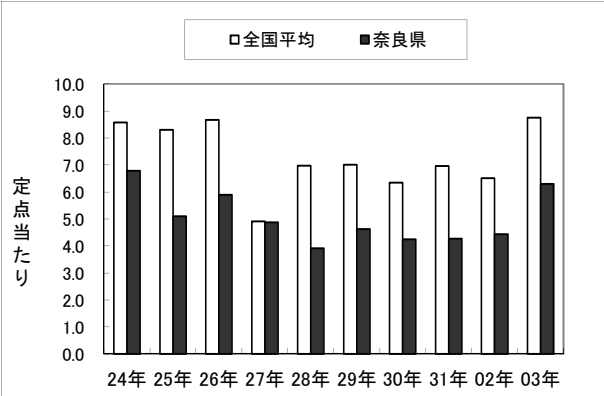


図 22-5 年齢別報告数(実数)

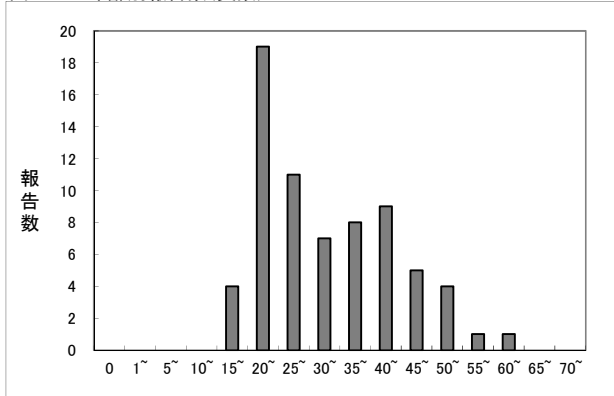
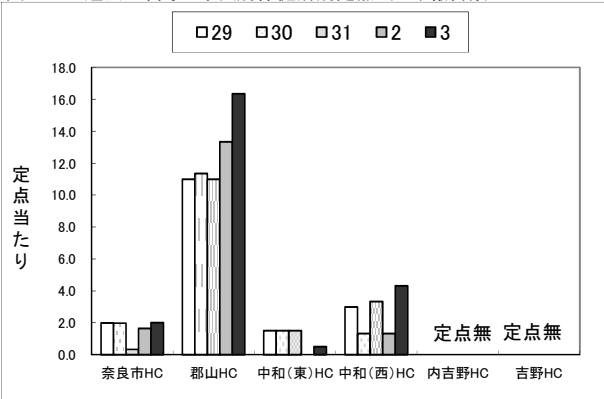


図 22-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

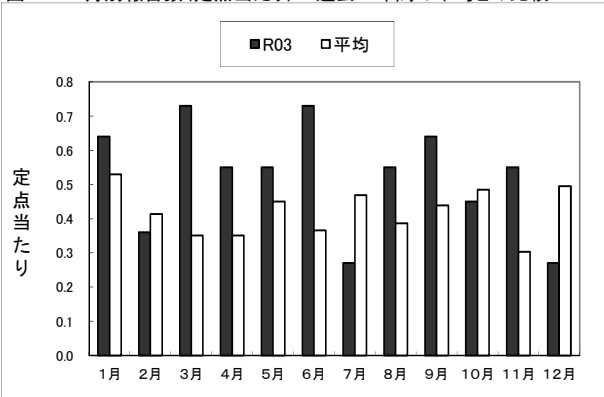


コメント

定点当たりの報告数は4疾患で第2位であり、微増傾向が観察される。全国では28位と他の3疾患と比較してやや順位が高い。報告数は全国平均と同様にこの5年は増加傾向にある。保健所別では郡山が突出して多く、中和(西)で増加傾向がみられた。月別では3月～6月の増加が著明であった。年齢別には20～24歳が最多で、15歳～60歳代まで分布しているが、20歳～40歳代が多い。

(三馬 省二 記)

図 22-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



基幹定点分(月報)

23.メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

図 23-1 過去10年間の月別定点当たりの報告数の推移



図 23-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数

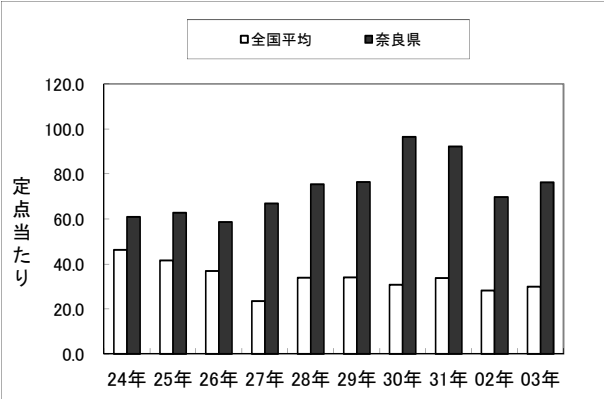


図 23-5 年齢別報告数(実数)

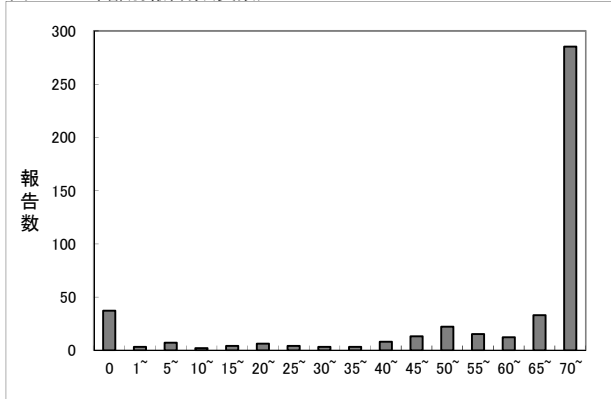
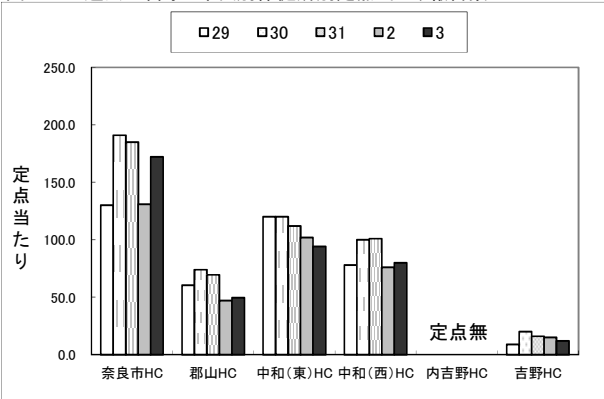


図 23-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数



コメント

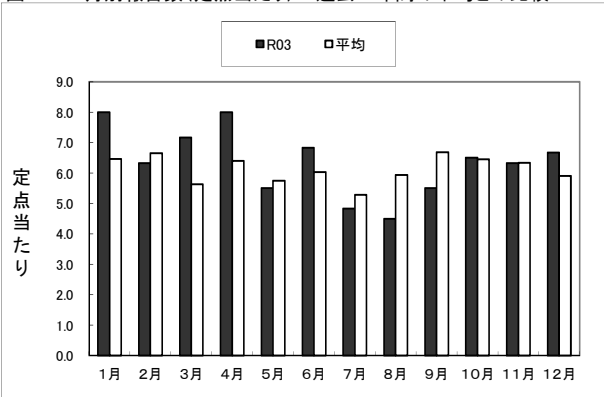
令和3年の奈良県における報告数は457例で、定点あたりの報告数は76.2であった。奈良県は例年MRSAの報告数が多く、令和3年も平成28年以降同様全国ワースト1位で、6年連続ワースト1位となってしまった。分離数に季節性は見られず、年齢も70歳以上からの分離率が極めて高い点は令和2年と同様であった。

例年述べているが、近年、奈良県で市中感染型MRSAという耐性菌の報告が増えている。市中感染型MRSAは、従来の院内感染型MRSAに比べ病原性が高く伝播拡散しやすい性質があり、注意が必要である。奈良県において家族性で難治性の市中感染型MRSA感染症が報告されている。

院内感染型MRSAについても、拡散防止のため医療機関の医療関連感染対策のさらなる徹底が必要であろう。

(矢野 寿一 記)

図 23-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



24.ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

図 24-1 過去10年間の月別定点当たりの報告数の推移

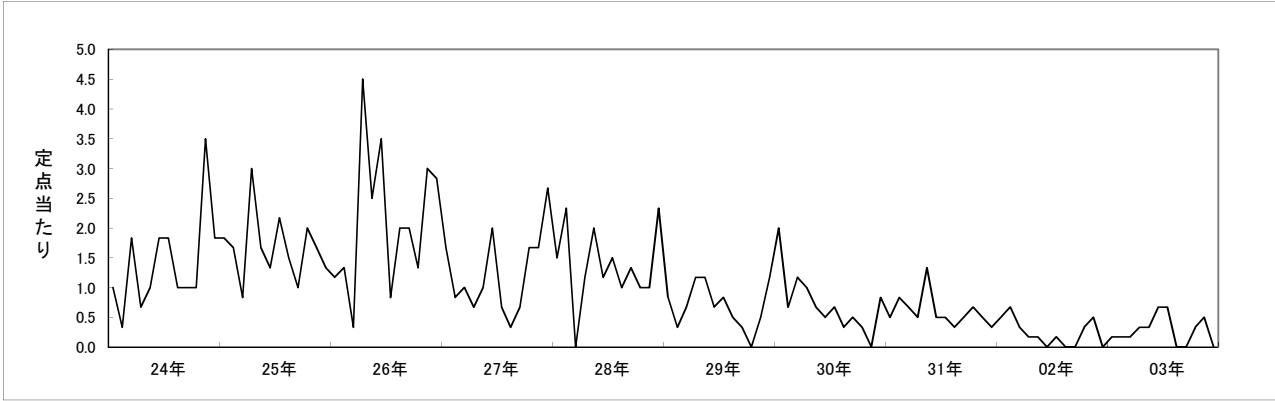


図 24-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数

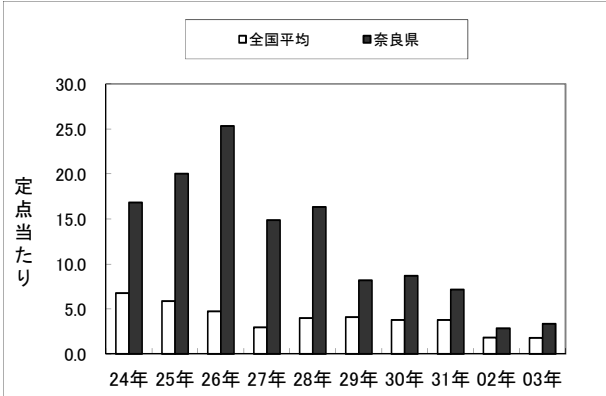


図 24-5 年齢別報告数(実数)

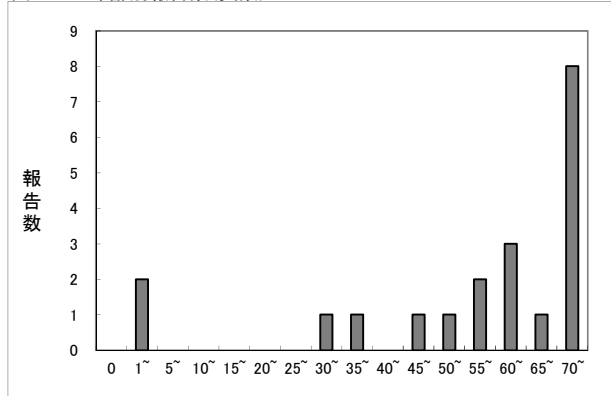
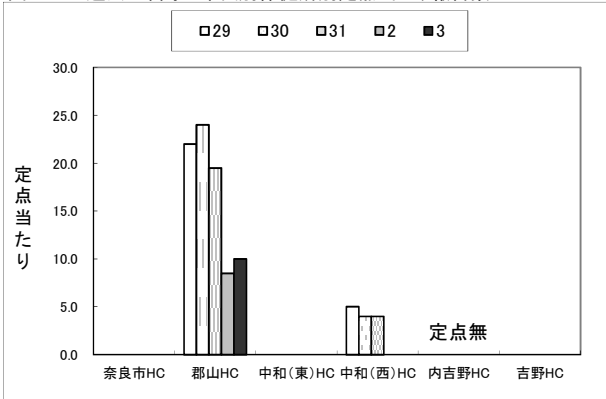


図 24-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

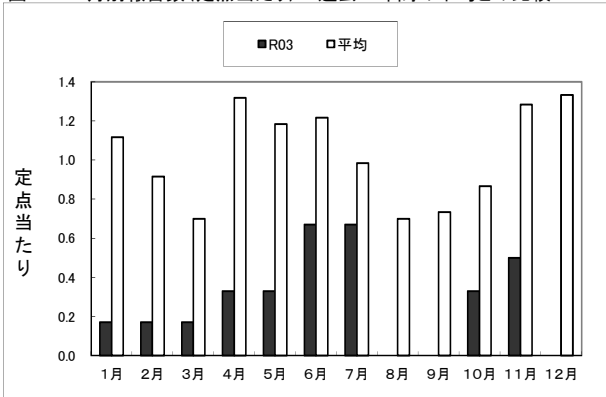


コメント

奈良県における令和3年における報告数は20例、定点あたりの報告数は3.34であった。令和2年の報告数は17例、定点あたり報告数は2.84と大きな変動はないが、全国順位は令和2年ワースト12位、令和3年ワースト9位と悪い順位で維持されていることに変わりはない。年齢別報告数は令和2年同様に70歳以上が多くを占めている。ワクチンがカバーしている肺炎球菌血清型は多く、ワクチン接種が肺炎球菌分離率を下げる事が知られている。奈良県におけるワクチン接種率は定かでないが、全国と比べてそれが低いことが示唆され(特に高齢者)、接種率増加を期待したい。

(矢野 寿一 記)

図 24-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



25.薬剤耐性緑膿菌感染症

図 25-1 過去10年間の月別定点当たりの報告数の推移

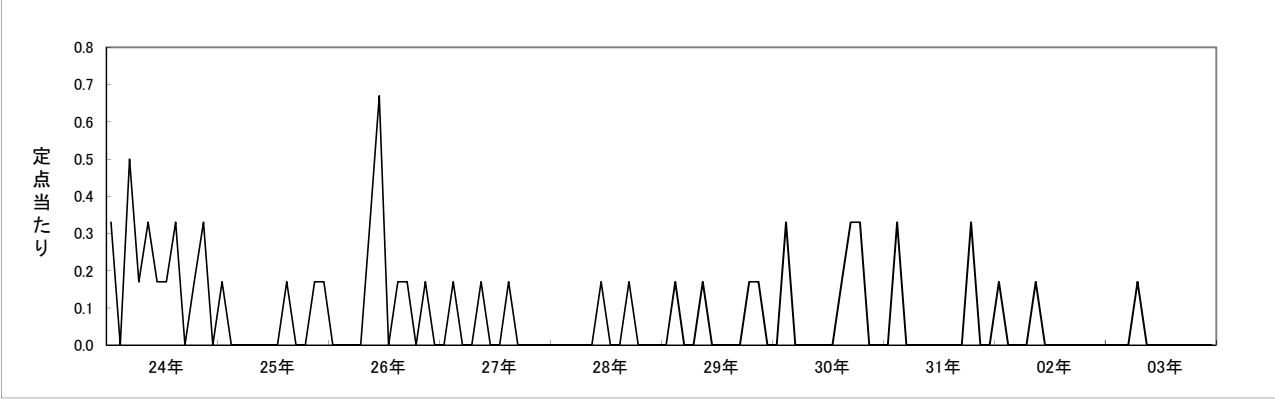


図 25-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数

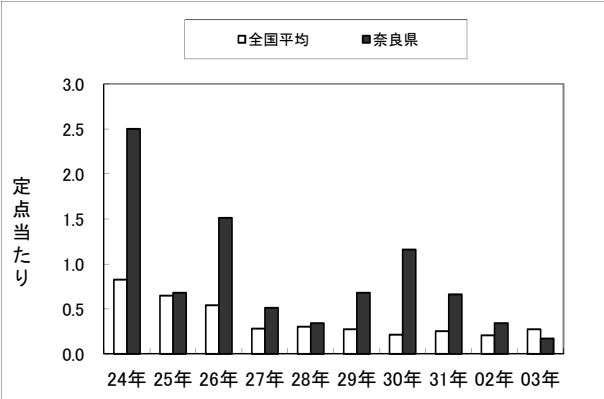


図 25-5 年齢別報告数(実数)

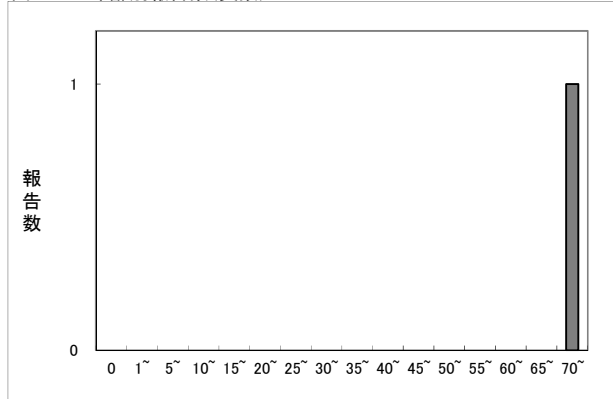
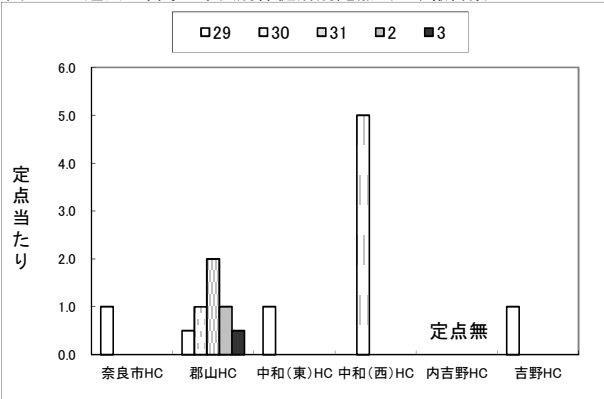


図 25-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数



コメント

令和3年の奈良県における全報告数は1例で、定点あたりの報告数は0.17であった。令和元年、2年の全報告数はそれぞれ4例、2例、定点あたりの報告数0.66、0.34と改善してきて、全国順位も3位から12位、令和3年は28位であった。
薬剤耐性緑膿菌の減少には感染対策と抗菌薬適正使用(特にカルバペネム系薬)が重要となる菌であり、各医療機関における適切な対応により今後も減少傾向が維持されることを期待する。

(矢野 寿一 記)

図 25-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

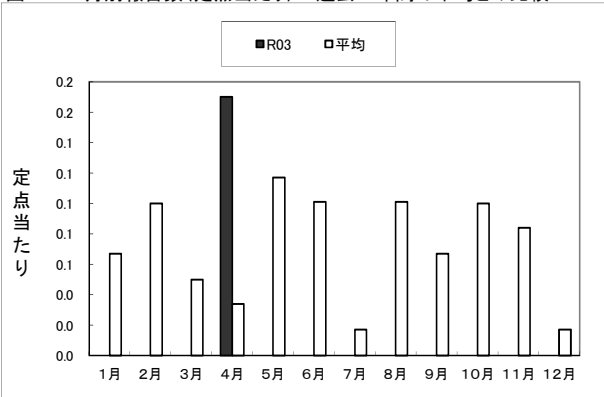


表1 疾患別・月別報告数

報告実数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
インフルエンザ	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2
RSウイルス感染症	21	9	2	241	880	802	718	256	77	8	21	5	3,040
咽頭結膜熱	24	40	49	56	61	92	50	30	26	17	15	43	503
A群溶連菌咽頭炎	58	58	67	79	61	32	31	18	39	16	13	21	493
感染症胃腸炎	218	274	342	607	465	528	471	329	410	299	450	1,548	5,941
水痘	13	7	10	6	4	10	5	8	14	13	26	10	126
手足口病	1	1	0	1	15	29	16	9	52	201	420	304	1,049
伝染性紅斑	0	0	1	2	1	2	1	1	2	6	2	0	18
突発性発しん	32	41	67	69	51	66	66	54	56	38	57	52	649
ヘルパンギーナ	3	1	2	3	2	8	21	9	44	65	62	22	242
流行性耳下腺炎	4	3	4	3	4	7	11	1	1	1	1	7	47
計	374	434	544	1,067	1,544	1,576	1,390	715	721	664	1,067	2,012	12,108
急性出血性結膜炎	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
流行性角結膜炎	9	5	9	9	7	8	16	6	8	9	11	13	110
計	9	6	9	9	7	8	16	6	8	9	11	13	111
細菌性髄膜炎	1	0	0	0	3	2	1	1	0	1	0	1	10
無菌性髄膜炎	0	1	0	2	0	0	0	1	0	0	1	0	5
マイコプラズマ肺炎	1	0	0	0	0	0	3	0	0	0	1	0	5
クラミジア肺炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	1	4
計	3	1	0	2	4	2	5	2	0	1	2	2	24
性器クラミジア感染症	17	16	14	15	15	20	15	21	14	15	23	17	202
性器ヘルペスウイルス感染症	7	3	5	2	7	6	1	7	9	7	10	1	65
尖圭コンジローマ	3	4	1	2	5	1	1	0	4	2	2	3	28
淋菌感染症	7	4	8	6	6	8	3	6	7	5	6	3	69
計	34	27	28	25	33	35	20	34	34	29	41	24	364
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	48	38	43	48	33	41	29	27	33	39	38	40	457
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	1	1	1	2	2	4	4	0	0	2	3	0	20
薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
計	49	39	44	51	35	45	33	27	33	41	41	40	478

定点当たり報告数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
インフルエンザ	0.00	0.00	0.02	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.02	0.04
RSウイルス感染症	0.62	0.26	0.06	7.09	25.88	23.59	21.12	7.53	2.26	0.24	0.62	0.15	89.41
咽頭結膜熱	0.71	1.18	1.44	1.65	1.79	2.71	1.47	0.88	0.76	0.50	0.44	1.26	14.79
A群溶連菌咽頭炎	1.71	1.71	1.97	2.32	1.79	0.94	0.91	0.53	1.15	0.47	0.38	0.62	14.50
感染症胃腸炎	6.41	8.06	10.06	17.85	13.68	15.53	13.85	9.68	12.06	8.79	13.24	45.53	174.74
水痘	0.38	0.21	0.29	0.18	0.12	0.29	0.15	0.24	0.41	0.38	0.76	0.29	3.71
手足口病	0.03	0.03	0.00	0.03	0.44	0.85	0.47	0.26	1.53	5.91	12.35	8.94	30.85
伝染性紅斑	0.00	0.00	0.03	0.06	0.03	0.06	0.03	0.03	0.06	0.18	0.06	0.00	0.53
突発性発しん	0.94	1.21	1.97	2.03	1.50	1.94	1.94	1.59	1.65	1.12	1.68	1.53	19.09
ヘルパンギーナ	0.09	0.03	0.06	0.09	0.06	0.24	0.62	0.26	1.29	1.91	1.82	0.65	7.12
流行性耳下腺炎	0.12	0.09	0.12	0.09	0.12	0.21	0.32	0.03	0.03	0.03	0.03	0.21	1.38
計	11.00	12.76	16.00	31.38	45.41	46.35	40.88	21.03	21.21	19.53	31.38	59.18	356.12
急性出血性結膜炎	0.00	0.10	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.10
流行性角結膜炎	0.90	0.50	0.90	0.90	0.70	0.80	1.60	0.60	0.80	0.90	1.10	1.30	11.00
計	0.90	0.60	0.90	0.90	0.70	0.80	1.60	0.60	0.80	0.90	1.10	1.30	11.10
細菌性髄膜炎	0.17	0.00	0.00	0.00	0.50	0.33	0.17	0.17	0.00	0.17	0.00	0.17	1.67
無菌性髄膜炎	0.00	0.17	0.00	0.33	0.00	0.00	0.00	0.17	0.00	0.00	0.17	0.00	0.83
マイコプラズマ肺炎	0.17	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.50	0.00	0.00	0.00	0.17	0.00	0.83
クラミジア肺炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	0.17	0.00	0.00	0.00	0.17	0.00	0.17	0.00	0.00	0.00	0.00	0.17	0.67
計	0.50	0.17	0.00	0.33	0.67	0.33	0.83	0.33	0.00	0.17	0.33	0.33	4.00
性器クラミジア感染症	1.55	1.45	1.27	1.36	1.36	1.82	1.36	1.91	1.27	1.36	2.09	1.55	18.36
性器ヘルペスウイルス感染症	0.64	0.27	0.45	0.18	0.64	0.55	0.09	0.64	0.82	0.64	0.91	0.09	5.91
尖圭コンジローマ	0.27	0.36	0.09	0.18	0.45	0.09	0.09	0.00	0.36	0.18	0.18	0.27	2.55
淋菌感染症	0.64	0.36	0.73	0.55	0.55	0.73	0.27	0.55	0.64	0.45	0.55	0.27	6.27
計	3.09	2.45	2.55	2.27	3.00	3.18	1.82	3.09	3.09	2.64	3.73	2.18	33.09
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	8.00	6.33	7.17	8.00	5.50	6.83	4.83	4.50	5.50	6.50	6.33	6.67	76.17
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0.17	0.17	0.17	0.33	0.33	0.67	0.67	0.00	0.00	0.33	0.50	0.00	3.33
薬剤耐性緑膿菌感染症	0.00	0.00	0.00	0.17	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.17
計	8.17	6.50	7.33	8.50	5.83	7.50	5.50	4.50	5.50	6.83	6.83	6.67	79.67

表3 疾患別・保健所別報告数

報告実数

	奈良市	郡山	中和(東)	中和(西)	内吉野	吉野	北部	中部	南部	奈良県
インフルエンザ	1	0	0	0	1	0	1	0	1	2
RSウイルス感染症	538	505	827	1,079	5	86	1,043	1,906	91	3,040
咽頭結膜熱	45	80	183	150	12	33	125	333	45	503
A群溶連菌咽頭炎	89	125	143	107	16	13	214	250	29	493
感染症胃腸炎	1,161	935	1,361	2,201	99	184	2,096	3,562	283	5,941
水痘	49	20	26	23	0	8	69	49	8	126
手足口病	247	230	177	378	1	16	477	555	17	1,049
伝染性紅斑	8	5	0	4	0	1	13	4	1	18
突発性発しん	190	104	135	203	0	17	294	338	17	649
ヘルパンギーナ	55	66	28	88	0	5	121	116	5	242
流行性耳下腺炎	10	12	10	8	1	6	22	18	7	47
計	2,392	2,082	2,890	4,241	134	369	4,474	7,131	503	12,108
急性出血性結膜炎	1	0	0	0	0	0	1	0	0	1
流行性角結膜炎	26	4	70	10	0	0	30	80	0	110
計	27	4	70	10	0	0	31	80	0	111
細菌性髄膜炎	0	6	3	1	0	0	6	4	0	10
無菌性髄膜炎	0	0	2	3	0	0	0	5	0	5
マイコプラズマ肺炎	0	0	0	4	0	1	0	4	1	5
クラミジア肺炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	0	1	0	2	0	1	1	2	1	4
計	0	7	5	10	0	2	7	15	2	24
性器クラミジア感染症	33	93	7	69	0	0	126	76	0	202
性器ヘルペスウイルス感染症	24	15	0	26	0	0	39	26	0	65
尖圭コンジローマ	0	6	1	21	0	0	6	22	0	28
淋菌感染症	6	49	1	13	0	0	55	14	0	69
計	63	163	9	129	0	0	226	138	0	364
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	172	99	94	80	0	12	271	174	12	457
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0	20	0	0	0	0	20	0	0	20
薬剤耐性緑膿菌感染症	0	1	0	0	0	0	1	0	0	1
計	172	120	94	80	0	12	292	174	12	478

定点当たり報告数

	奈良市	郡山	中和(東)	中和(西)	内吉野	吉野	北部	中部	南部	奈良県
インフルエンザ	0.07	0.00	0.00	0.00	0.50	0.00	0.04	0.00	0.17	0.04
RSウイルス感染症	59.78	56.11	118.14	179.83	5.00	43.00	57.94	146.62	30.33	89.41
咽頭結膜熱	5.00	8.89	26.14	25.00	12.00	16.17	6.94	25.62	15.00	14.79
A群溶連菌咽頭炎	9.89	13.89	20.43	17.83	16.00	6.50	11.89	19.23	9.67	14.50
感染症胃腸炎	129.00	103.89	194.43	366.83	99.00	88.00	116.44	274.00	94.33	174.74
水痘	5.44	2.22	3.71	3.83	0.00	4.00	3.83	3.77	2.67	3.71
手足口病	27.44	25.56	25.29	63.00	1.00	7.83	26.50	42.69	5.67	30.85
伝染性紅斑	0.89	0.56	0.00	0.67	0.00	0.50	0.72	0.31	0.33	0.53
突発性発しん	21.11	11.56	19.29	33.83	0.00	8.33	16.33	26.00	5.67	19.09
ヘルパンギーナ	6.11	7.33	4.00	14.67	0.00	2.50	6.72	8.92	1.67	7.12
流行性耳下腺炎	1.11	1.33	1.43	1.33	1.00	2.83	1.22	1.38	2.33	1.38
計	265.78	231.33	412.86	706.83	134.00	179.67	248.56	548.54	167.67	356.12
急性出血性結膜炎	0.33	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.17	0.00	0.00	0.10
流行性角結膜炎	8.67	1.33	35.00	5.00	0.00	0.00	5.00	20.00	0.00	11.00
計	9.00	1.33	35.00	5.00	0.00	0.00	5.17	20.00	0.00	11.10
細菌性髄膜炎	0.00	3.00	3.00	1.00	0.00	0.00	2.00	2.00	0.00	1.67
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	2.00	3.00	0.00	0.00	0.00	2.50	0.00	0.83
マイコプラズマ肺炎	0.00	0.00	0.00	4.00	0.00	1.00	0.00	2.00	1.00	0.83
クラミジア肺炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	0.00	0.50	0.00	2.00	0.00	1.00	0.33	1.00	1.00	0.67
計	0.00	3.50	5.00	10.00	0.00	2.00	2.33	7.50	2.00	4.00
性器クラミジア感染症	11.00	31.00	3.50	23.00	0.00	0.00	21.00	15.20	0.00	18.36
性器ヘルペスウイルス感染症	8.00	5.00	0.00	8.67	0.00	0.00	6.50	5.20	0.00	5.91
尖圭コンジローマ	0.00	2.00	0.50	7.00	0.00	0.00	1.00	4.40	0.00	2.55
淋菌感染症	2.00	16.33	0.50	4.33	0.00	0.00	9.17	2.80	0.00	6.27
計	21.00	54.33	4.50	43.00	0.00	0.00	37.67	27.60	0.00	33.09
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	172.00	49.50	94.00	80.00	0.00	12.00	90.33	87.00	12.00	76.17
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0.00	10.00	0.00	0.00	0.00	0.00	6.67	0.00	0.00	3.33
薬剤耐性緑膿菌感染症	0.00	0.50	0.00	0.00	0.00	0.00	0.33	0.00	0.00	0.17
計	172.00	60.00	94.00	80.00	0.00	12.00	97.33	87.00	12.00	79.67